

# 第1章

## 中央市の概況と課題



# 第1章 中央市の概況と課題

## 1. 中央市の概況

### (1) 広域的な立地条件

本市は、甲府盆地の南西に位置する田園都市で、豊かな自然環境に恵まれ、甲府市に隣接し、県内のどの都市にもアクセスが容易な交通利便性の高いまちです。

本市周辺において、リニア中央新幹線山梨県駅の設置や中部横断自動車道の整備が進められており、広域的なアクセスの向上に伴い、地域の更なる発展が期待されています。

本市は、東京都心から約120km 圏、甲府盆地の南西に位置し、東は甲府市に、北は昭和町に、西は釜無川を挟んで南アルプス市に、南は市川三郷町に接しています。

地勢的には、釜無川により形成された沖積平野の平坦な地域（田富地域・玉穂地域）と御坂山系の豊かな自然環境に恵まれた中山間地域（豊富地域）に分けられ、両地域は笛吹川によって隔てられています。

広域からの交通アクセスとしては、中央自動車道甲府南 IC、甲府昭和 IC に近接しているほか、新山梨環状道路（南部区間）が本市の東西を横断し、中部横断自動車道南アルプス IC に連絡していること、今後、新山梨環状道路（東部区間・北部区間）や中央自動車道（仮称）甲府中央スマート IC の整備が予定されているなど、広域的なアクセス条件に恵まれています。

また、主要な幹線道路としては、南北方向に（主）甲府市川三郷線、（主）甲府中央右左口線及び（主）甲斐中央線が、東西方向には国道140号と（主）韮崎南アルプス中央線が通っており、市内を JR 身延線が縦断し東花輪駅と小井川駅の2つの駅があるなど、周辺の都市に容易にアクセスできる交通利便性の高いまちです。

現在、本市周辺において、リニア中央新幹線山梨県駅の設置や中部横断自動車道の建設など広域幹線交通網の整備が進められており、今後、首都圏や中京圏との広域的なつながりが強化されることにより新たな発展が期待されています。

### ■中央市の広域的な位置



## (2) 中央市の特色

中央市の大きな特色としては、「豊かな自然環境」、「交通の要衝」、「県内有数の産業集積地」、「特色ある農産物」、「医療・福祉・利便施設が充実した住み良いまち」、「若い世代、外国人が多く住むまち」などが挙げられます。

### ① 豊かな自然環境と特徴的な田園景観

本市は、御坂山系から派生する曾根丘陵の自然に抱かれ、笛吹川、釜無川をはじめ、数多くの河川が流れるなど、自然環境に恵まれており、豊かな水辺に囲まれた風景は、本市の大きな特徴となっています。

また、市内には広大な水田地帯が広がりを見せ、南アルプス、八ヶ岳、秩父山地を望む田園風景は、果樹栽培の多い周辺地域の中では、大きな特色となっています。

さらに、山の神干本桜周辺からは、甲府盆地を一望する優れた眺望が広がっています。



・釜無川の流れと八ヶ岳

### ② 県の中央に位置する交通の要衝

本市は、JR 身延線が縦断し、周辺都市を連絡する新山梨環状道路（南部区間）、国道 140 号、（主）甲府市川三郷線などの幹線道路が通っており、中央自動車道 IC（甲府南、甲府昭和）にも近接しているなど、県の中央部にあるだけでなく、周辺の都市に容易にアクセスできる交通の要衝となっています。また、本市の東側に隣接してリニア中央新幹線山梨県駅の設置が予定されています。



・新山梨環状道路（南部区間）

### ③ 県内有数の産業集積地

本市には、リバーサイド地区周辺の大型店舗集積地区や流通団地（流通業務施設）、国母工業団地や山梨ビジネスパークなど、県内有数の商工業集積地が形成されており、山梨大学医学部周辺の区画整理地内にも大型店舗が立地するなど、企業進出が進んでおり、本市の大きな特色となっています。



・リバーサイド地区周辺の大型店舗

### ④ 活発な農業・特色ある農産物

本市の農業は、稲作から野菜等を中心とする近郊農業への移行が図られ、田富地域・玉穂地域のトマト、ナス、キュウリ、豊富地域のトウモロコシ等の特色ある農産物や果樹栽培などが有名です。また、これらの農産物や畜産物を利用した加工品の生産も進められ、グリーンツーリズムなどの取り組みも行われているなど、本市の大きな特色となっています。



・教育ファームでの田植えの様子

### ⑤ 医療・福祉・便利施設が充実した住み良いまち

本市は、保育園をはじめ、子育て支援の施設や取り組みが充実しています。医療では、地域の中核的医療及び高度医療を担う山梨大学医学部附属病院が立地しているほか、地域医療・在宅医療支援や高齢者の介護支援体制も充実しています。

このような立地条件にあることから、全国812都市を対象とした「住みよさランキング」では、令和2年に県内で第1位となるなど、全国でも住みやすいまちと評価されています。



・親子リトミック



・山梨大学医学部附属病院



・いきいき百歳体操

### ⑥ 若い世代、外国人が多く住むまち

本市は、甲府市中心部から近距離にあり、交通の利便性が高く、働く場も多いことから、近年まで人口増加を続けてきました。しかし、現在は、横ばいから減少傾向に転じています。

また、65歳以上の「高齢者人口」の割合は、県内で3番目に低く、若い世代が多いことが特徴的で、特に、若いファミリー層が多くなっています。

このほか、外国籍住民が多く住んでいることが本市の特色のひとつとなっています。



・国際交流イベント「MANNAKA」

### (3) 中央市の概況

#### 1) 中央市の生い立ち(歴史的特色)

縄文時代から人が住んでいた本市の歴史は古く、平安時代中期から現在のまちの基礎となる集落が形成され、稲作を中心とした純農村地域、養蚕の里として発達してきました。

#### ■ 原始時代

曽根丘陵周辺の台地部では、古くは縄文時代中期から生活の痕跡が残されており、弥生時代の横畑遺跡、古墳時代の王塚古墳等の多くの遺跡が確認されています。

#### ■ 古代

平安時代末期の大福寺周辺は、甲斐国の仏教中心地の一つだったとも考えられています。

釜無川と笛吹川に挟まれた地域は、「布施荘」の名が『中右記』元永2年(1119年)に、「小井川」の名が『安楽寺院等荘園録案』安元2年(1176年)の記載に登場し、平安時代後半には、開発の手が伸びていたことを裏付けています。

#### ■ 中世

古代末から中世には、平家物語でも活躍する浅利与一が、市内を広く影響下におき、15世紀に入ると近世の村に相当する地名が資料で確認できるようになります。新しい村の形成が大きく進展し、各地で活発に寺院・神社が創建、再興されたのもこの頃といわれています。

#### ■ 近世

近世は、自然災害に遭いつつも稲作を中心とした純農村地域として発達し、非常に高い石高を誇ったことが検地帳により伝えられています。また、明治・大正時代に至っても風水害、地震災害は繰り返し襲い、その苦難を乗り越える中で粘土節が生まれました。

#### ■ 明治時代～現代

明治時代には、養蚕技術に力を入れ全国有数の養蚕地帯でした。特に旧豊富村は、近年まで養蚕業が守られ、全国でも有数の養蚕の村として知られていました。

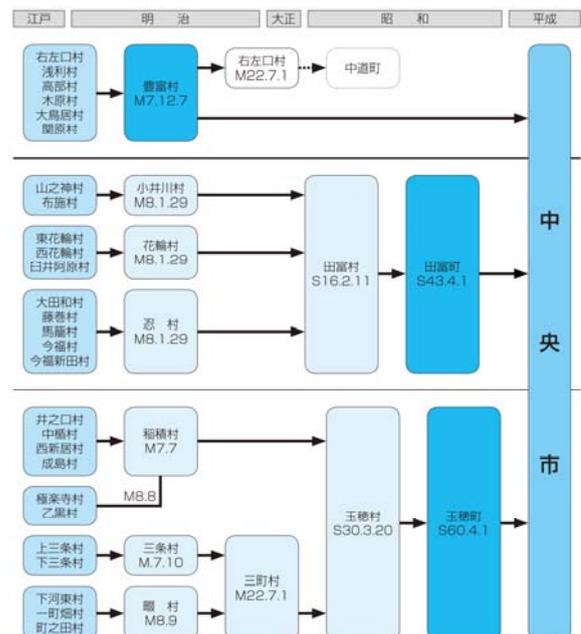
一方で、旧田富町、旧玉穂町は、近世より稲作を中心とした純農村地域として発達してきましたが、戦後には養蚕業の衰退、堤防補強などにより野菜等の都市近郊農業に移行しています。

現在ではリバーサイド地区周辺の大型店舗、流通団地、国母工業団地や山梨ビジネスパークなどの整備、山梨大学医学部周辺の土地区画整理事業等による商工業の集積、人口の増加など、自立した都市としてめざましい発展をしています。

#### <中央市の沿革>

明治以降の区政や郡区町村編成法などによる合併、昭和の大合併により、旧田富町、旧玉穂町、旧豊富村が誕生しました。その後、平成18年2月20日、3町村の合併により、中央市が誕生しました。

#### ■ 中央市の沿革(市町村合併)



〔出典：第1次中央市長期総合計画(平成20年3月)〕

## 2) 自然環境

本市は、曾根丘陵の豊かな緑と笛吹川や釜無川など、市内を流れる多くの河川の水辺環境など、自然環境に恵まれています。

### ① 地形・河川水系

本市の地形は、釜無川により形成された沖積平野の平坦な地域（田富地域・玉穂地域）と御坂山系の豊かな自然環境に恵まれた中山間地域（豊富地域）に分けられ、両地域は笛吹川によって隔てられています。

田富地域、玉穂地域の平坦地は、笛吹川と釜無川に挟まれ、両河川によって形成された沖積層上にひらけており、北部から南部に緩やかに傾斜しています。

豊富地域は、笛吹川左岸と御坂山系との間に広がる標高約 280m～900mの曾根丘陵地帯となっています。

河川水系としては、富士川水系に属しており、市内を流れる主要な河川としては、笛吹川、釜無川のほか、鎌田川、山王川、常永川、浅利川等が挙げられます。



・上空からみた中央市

### ② 自然環境

本市は、曾根丘陵の森林や平坦地に広がる農地の緑、市内を流れる笛吹川や釜無川などの水辺など、豊かな自然環境に恵まれており、代表的な自然資源である山の神千本桜周辺は、市民の自然とのふれあいの場として親しまれています。

また、市内では、豊かな水辺資源を生かし、子どもたちの水辺のふれあいを高める「水辺の楽校」の取り組みが進められています。



・山の神千本桜



・笛吹川

### 3)人口の動向

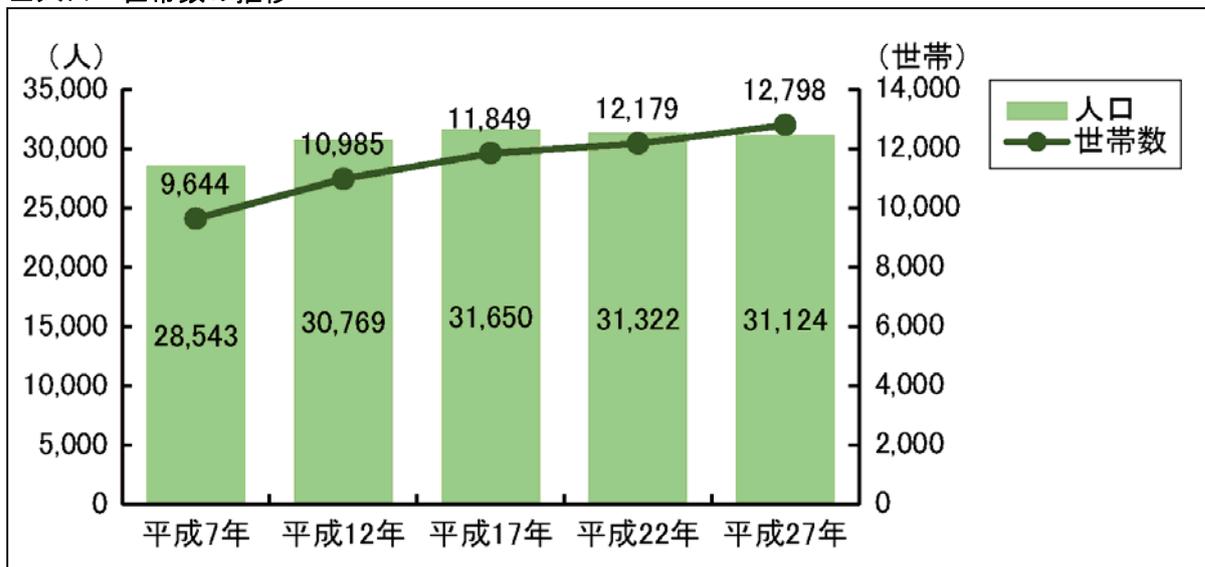
本市の人口は増加を続けてきましたが、平成17年をピークに微減傾向にあります。一方、世帯数は一貫して増加傾向にあります。

65歳以上の高齢者の占める割合は、山梨県及び全国の平均を下回る水準で、比較的若い世代が多いことが伺えます。本市の人口の約74%が市街化区域内に集中しており、田富地域に人口集中地区(DID地区)が形成されています。

#### ① 総人口・世帯数の推移

平成27年10月1日現在の本市の人口及び世帯数は、31,124人、12,798世帯で、これまで増加を続けてきた人口は、平成17年の31,650人をピークに緩やかに減少傾向に転じています。一方、世帯数は現在も一貫して増加しています。

##### ■人口・世帯数の推移

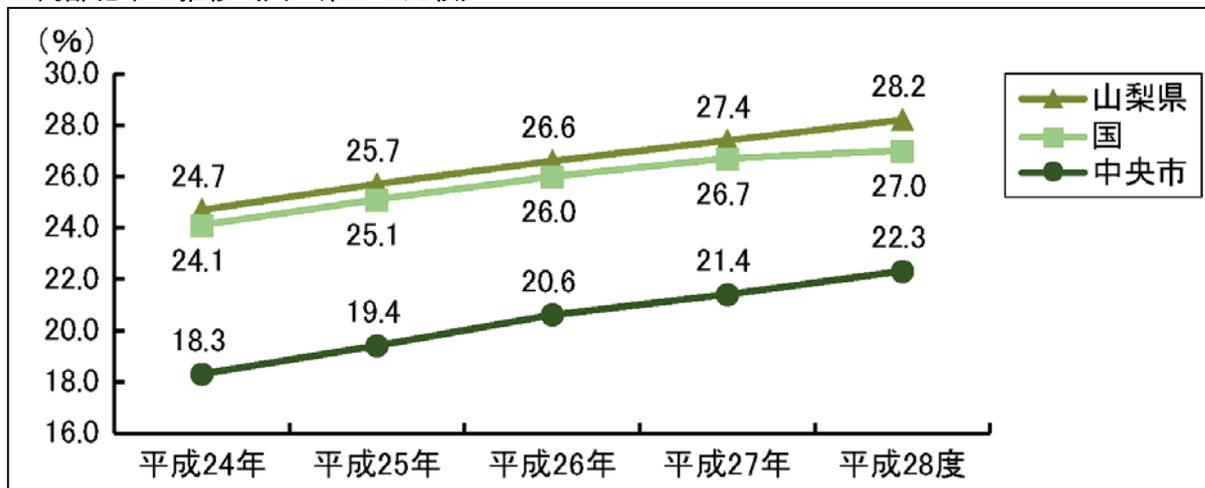


[資料：国勢調査]

#### ② 高齢化の状況

本市における65歳以上の高齢者の占める割合は、年々上昇傾向にあるものの、平成28年4月1日現在22.3%で、県平均の28.2%、全国平均の27.0%に比べて低い水準にあり、比較的若い世代が多いことが伺えます。

##### ■高齢化率の推移(国・県との比較)



[資料：山梨県高齢者福祉基礎調査]

### ③ 地域別人口の推移

地域別の人口の推移をみると、玉穂地域は増加傾向にあります。田富地域と豊富地域は減少傾向にあります。

#### ■地域別人口の推移

(単位：人)

地 域	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
田富地域	16,694	17,267	16,612	16,352
玉穂地域	10,433	10,787	11,207	11,434
豊富地域	3,632	3,596	3,503	3,338
計	30,769	31,650	31,322	31,124

[資料：国勢調査]

### ④ 都市計画区域及び市街地の人口

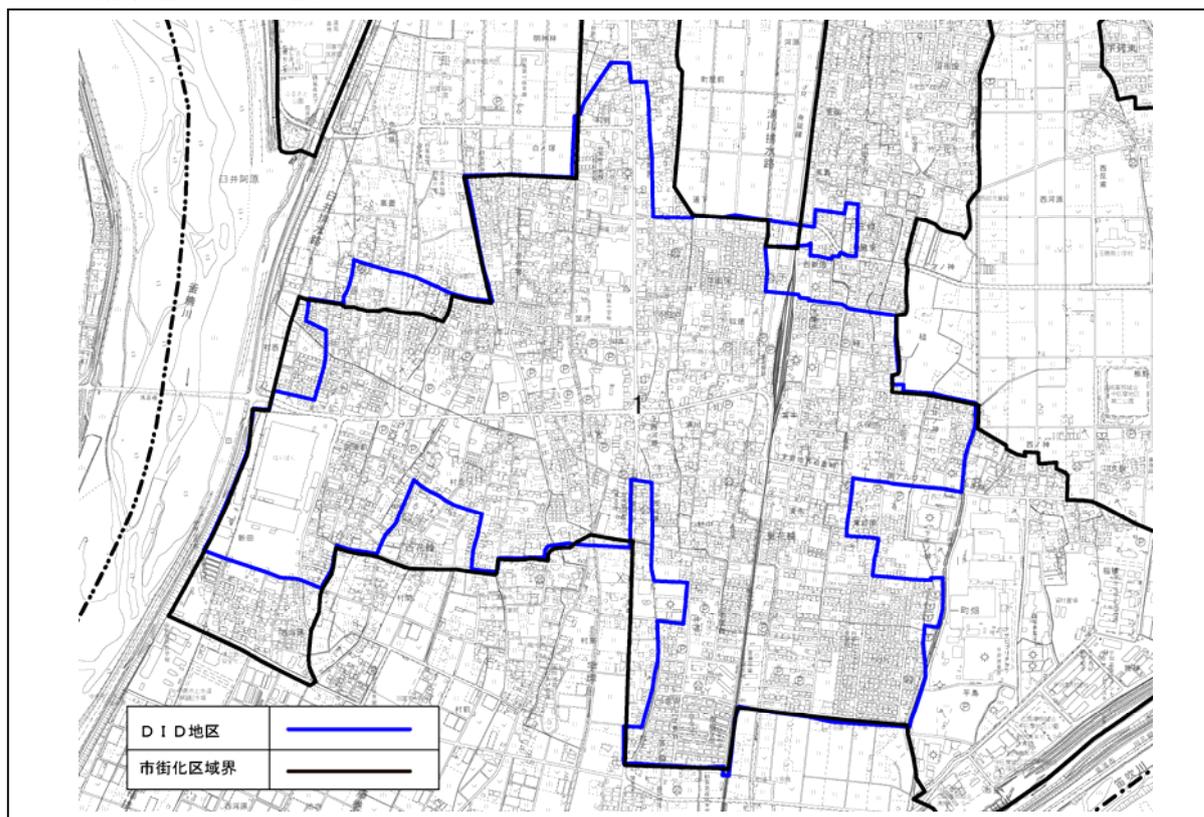
本市の人口の大部分は都市計画区域内に居住しており、そのうちの約 74%が市街化区域に集中しています。また、田富地域に人口集中地区（DID 地区）が形成されています。

#### ■都市計画区域及び市街地の人口（平成 27 年）

区 分	面 積		人 口	
	面積 (ha)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)
行政区域	3,169	100.0	31,124	100.0
都市計画区域	2,724	86.0	31,124	100.0
市街化区域	685	21.6	23,019	74.0
DID 地区	170	5.4	8,206	26.4

[資料：中央市都市計画基礎調査（平成 29 年）]

#### ■人口集中地区（DID 地区）



[資料：中央市都市計画基礎調査（平成 29 年）]

## ⑤ 通勤・通学の状況

市民の通勤・通学先は隣接する甲府市が最も多く、次いで、通勤では昭和町、南アルプス市、甲斐市、通学では、昭和町、市川三郷町、南アルプス市の順となっており、本市との結びつきの強い市町村となっています。

### ■流出人口（通勤）

項目		流出者数（人）
常住地による就業者数		15,667
流出	就業者数	9,103 [流出率：58.1%]
流出先別の流出者数	県内	8,838
	1位 甲府市	3,642
	2位 昭和町	1,412
	3位 南アルプス市	1,196
	4位 甲斐市	586
	5位 笛吹市	534
	その他の市町村	1,468
県外	205	

注) 流出率：流出就業者数／常住地による就業者数×100（%）

項目		流入者数（人）
従業地による就業者数		16,726
流入	就業者数	10,102 [流入率：60.4%]
流入別の流入者数	県内	9,949
	1位 甲府市	3,062
	2位 南アルプス市	1,965
	3位 甲斐市	1,406
	4位 昭和町	946
	5位 笛吹市	722
	その他の市町村	1,848
県外	153	

注) 流入率：流入就業者数／従業地による就業者数×100（%）

〔資料：中央市都市計画基礎調査（平成29年）〕

### ■流出人口（通学）

項目		流出者数（人）
常住地による通学者数		4,204
流出	通学者数	1,315 [流出率：31.3%]
流出先別の流出者数	県内	1,218
	1位 甲府市	789
	2位 昭和町	85
	3位 市川三郷町	77
	4位 南アルプス市	75
	5位 甲斐市	60
	その他の市町村	132
県外	90	

注) 流出率：流出通学者数／常住地による通学者数×100（%）

項目		流入者数（人）
従業地による通学者数		3,179
流入	通学者数	283 [流入率：8.9%]
流入別の流入者数	県内	209
	1位 甲府市	78
	2位 昭和町	34
	3位 南アルプス市	25
	4位 甲斐市	17
	5位 笛吹市	11
	その他の市町村	44
県外	74	

注) 流入率：流入通学者数／従業地による通学者数×100（%）

〔資料：中央市都市計画基礎調査（平成29年）〕

## 4) 産業

本市は、県内有数の商業・工業集積地となっており、企業立地が進んでいますが、商業・工業は全体的に伸び悩んでいます。

近年は、広域的な道路網の整備に伴い、物流施設等の立地が進んでいます。

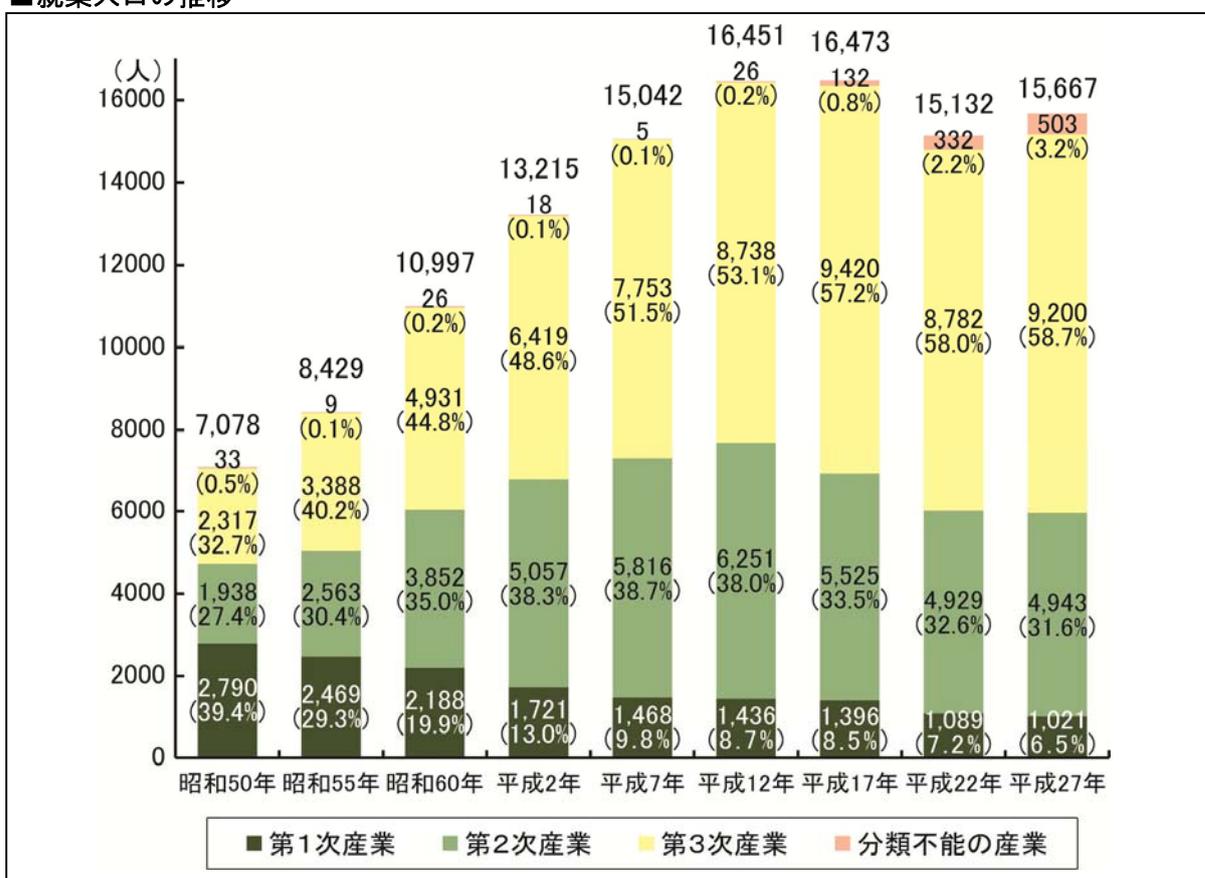
農業も特産物の栽培や観光農業など、活性化に向けた取り組みが行われていますが、農業従事者の高齢化や後継者不足など農業を取りまく環境は厳しい状況にあります。

観光も、全体的に伸び悩みの状況にあります。

### ① 就業構造

本市の就業人口は、商業業務サービス等を中心とした第3次産業人口が最も高く、平成27年には全体の約6割を占めています。また、第2次産業は約32%で、全体的に減少傾向にあります。

#### ■就業人口の推移



[資料：国勢調査]

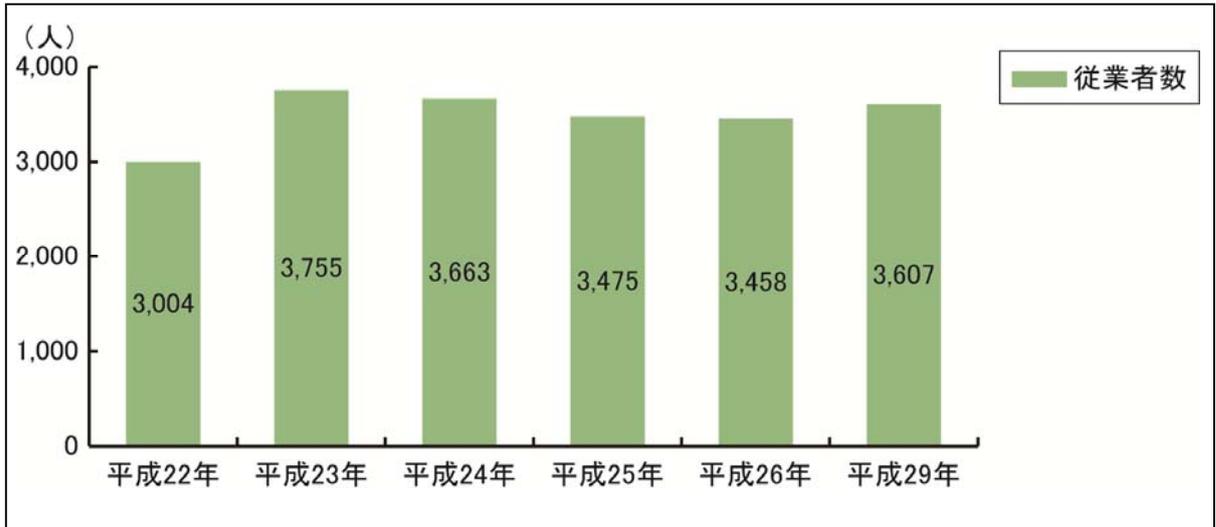
### ② 産業の概況

#### (ア) 工業

市内には、山梨ビジネスパーク、国母工業団地、一町畑工業団地といった工業団地が3か所整備されており、県内では有数の工業集積地となっています。しかし、本市の工業は、事業数、従業者数及び製造品出荷額とも、全体的にやや減少傾向にあります。

また、製造業の業種別を従業者数ベースで見ると、「食品製造業」が市全体の4割以上を占め、次いで「はん用機械器具製造業」(15.0%)、「電子部品、デバイス、電子回路製造業」(11.0%)、「電気機械器具製造業」(10.5%)の順となっています。

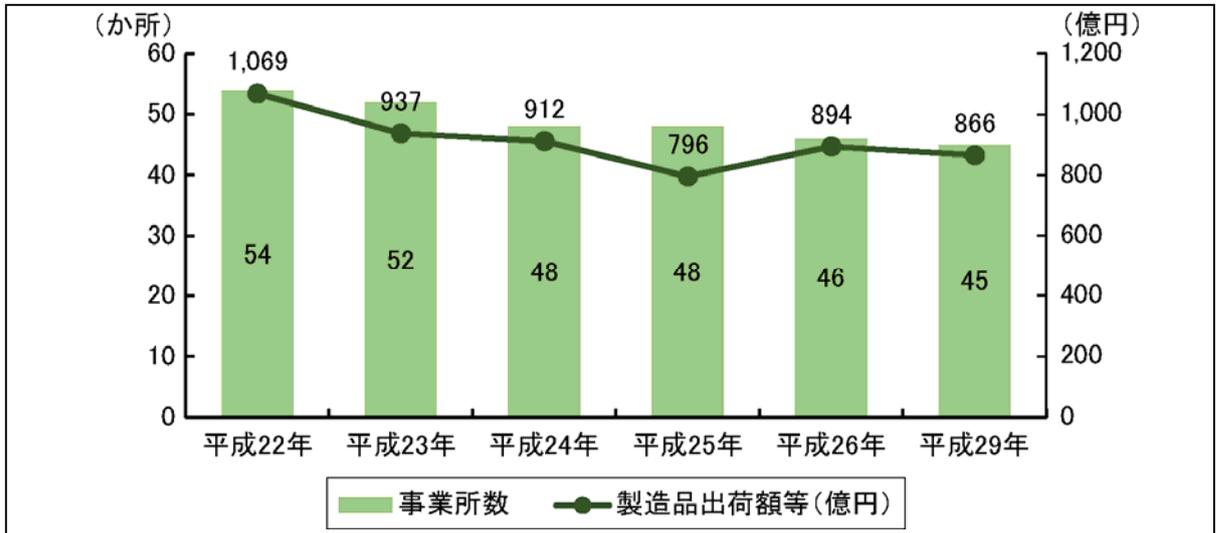
### ■従業者数の推移



注) 平成 27 年、平成 28 年は工業統計調査が実施されていない。

[資料：工業統計調査]

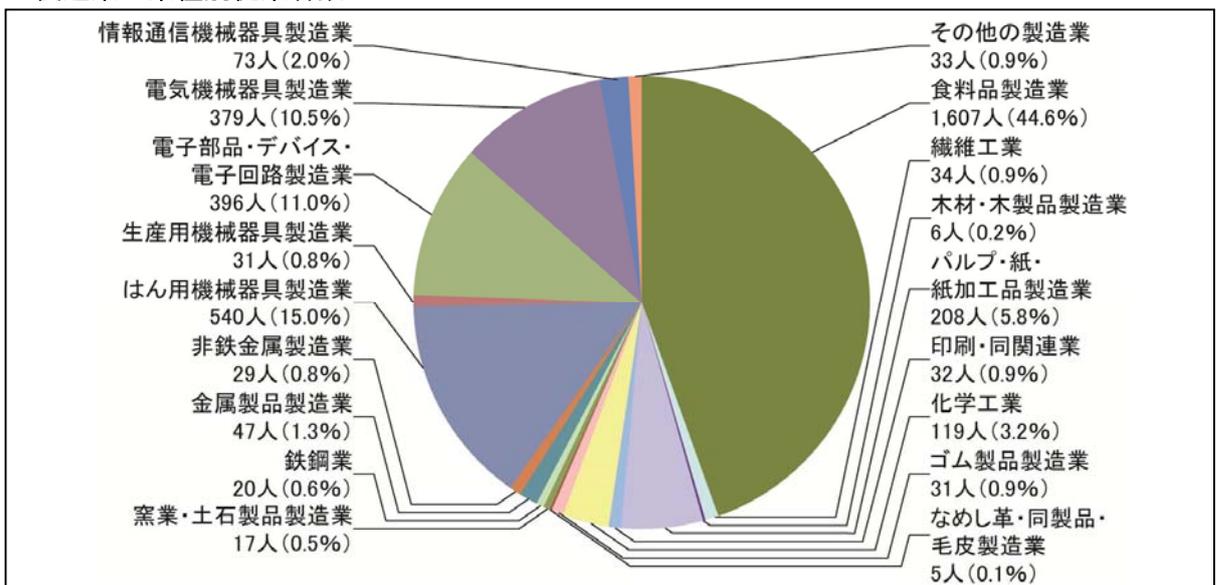
### ■事業所数・製造品出荷額の推移



注) 平成 27 年、平成 28 年は工業統計調査が実施されていない。

[資料：工業統計調査]

### ■製造業の業種別従業者数



[資料：工業統計調査]

## (イ) 農業

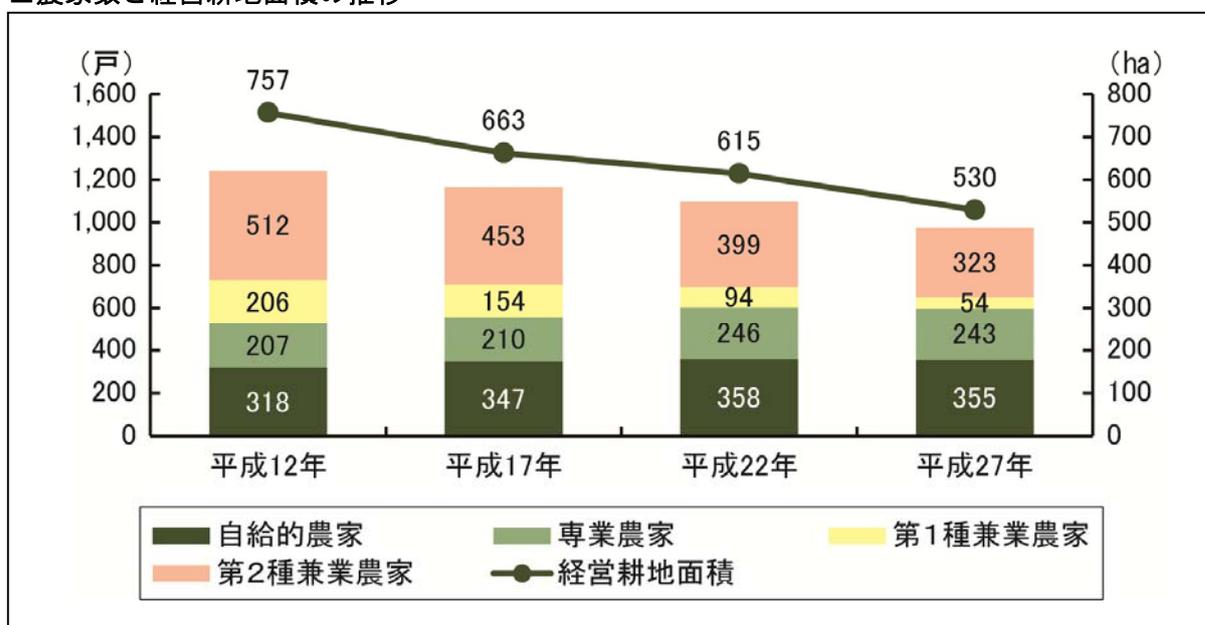
本市の農業は、トマト、キュウリ、ナス、トウモロコシなどを中心とした野菜（施設・露地）の生産が盛んです。しかしながら、農家人口や農家数の減少、後継者不足、担い手の高齢化による遊休農地や耕作放棄地の増加など、農業をとりまく環境は厳しく、多くの課題を抱えています。

本市の農家数は、平成12年の1,243戸から、平成27年には975戸と268戸も減少しました。内訳をみると、兼業農家数は減少しているものの、自給的農家と専業農家は微増から横ばい傾向にあります。

本市の経営耕地面積は、平成12年の757haから平成27年では530haと227haも減少しています。

また、耕作放棄地は増加傾向にあり、県平均の約4割に比べると低いものの、全体の経営耕地面積に占める割合は約3割と高い比率となっています。

### ■農家数と経営耕地面積の推移



[資料：山梨県農林業センサス]

### ■耕作放棄地の推移

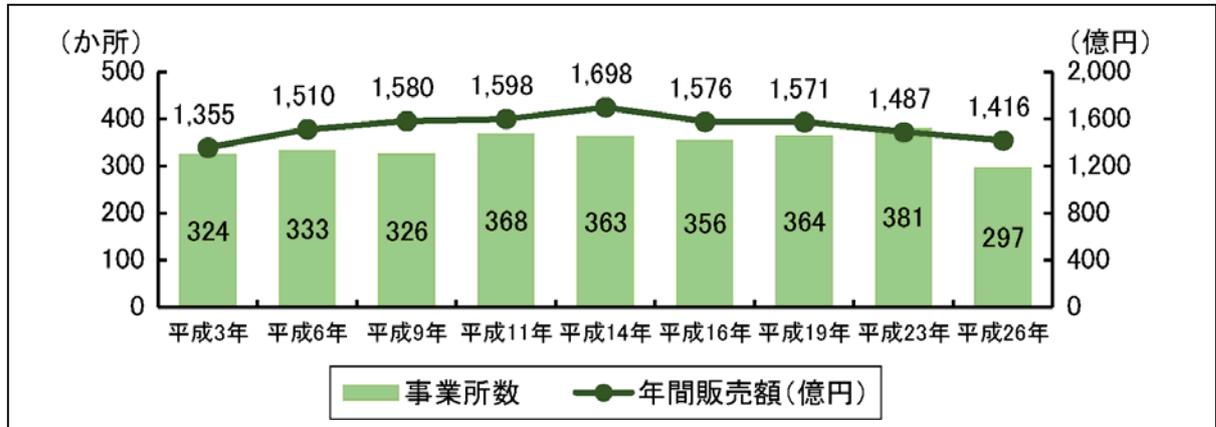
区分	年次	経営耕地面積 (ha)	耕作放棄地 (ha)	割合 (%)
中央市	平成12年	757	76	10.0
	平成17年	663	127	19.2
	平成22年	615	134	21.8
	平成27年	530	154	29.1
山梨県	平成27年	15,750	5,781	36.7

[資料：山梨県農林業センサス]

(ウ) 商業

本市の商業は、事業所数、従業者数、年間商品販売額ともに減少傾向にあります。また、本市の大規模小売店舗は、市内の北部に集積しています。

■事業所数・年間商品販売額の推移

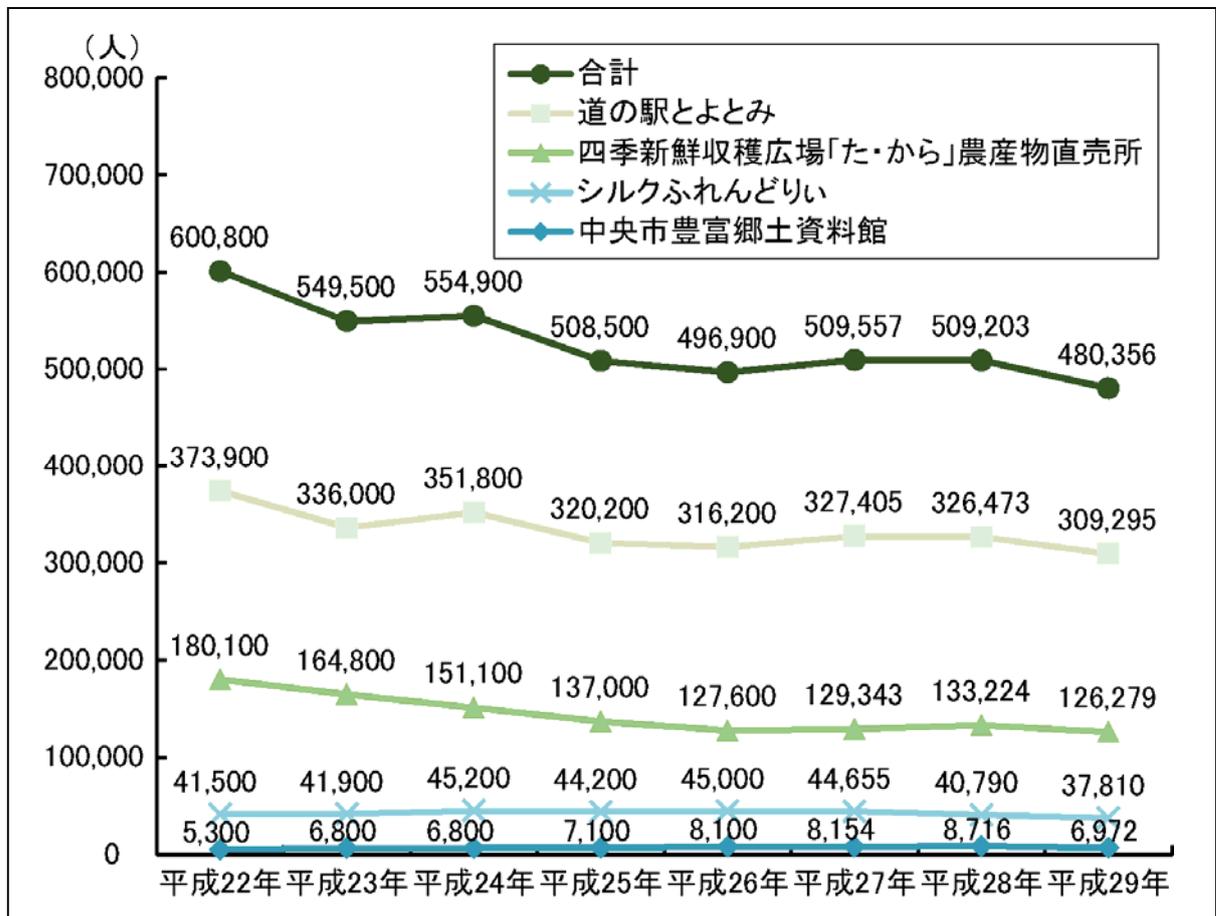


[資料：山梨県商業統計調査]

(エ) 観光

本市の観光施設としては、道の駅とよとみ、四季新鮮収穫広場「た・から」農産物直売所、シルクふれんどりい、中央市豊富郷土資料館などがあります。これらの主要観光施設の入り込み客数は、全体的に減少傾向にあります。シルクふれんどりいはほぼ横ばい、中央市豊富郷土資料館は微増傾向となっています。

■観光入り込み客数の推移



[資料：中央市資料]

## 5) 土地利用

本市の笛吹川以北の平坦地は、農地と宅地を主体とした田園都市的な土地利用となっており、田富地域や玉穂地域の市街化区域を中心に市街化が進んでいます。  
笛吹川以南の豊富地域は自然環境に恵まれた里山・農業集落となっています。

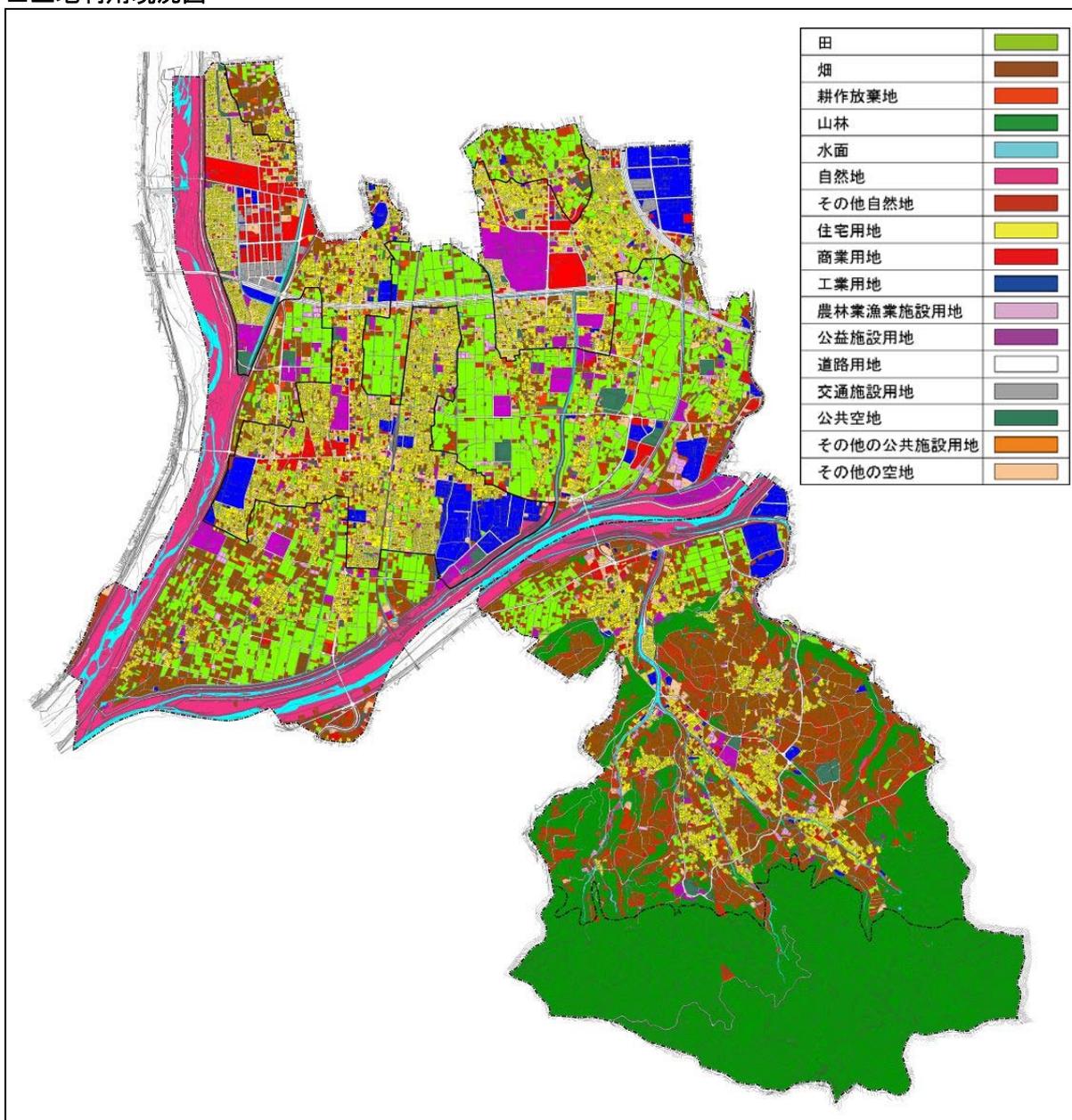
### ① 土地利用の現況

本市の土地利用は、平成 29 年現在、農地が 891ha（28%）と最も多く、次いで山林の 642ha（20%）、宅地の 621ha（20%）の順となっています。

田富地域や玉穂地域は、農地と宅地を主体とした田園都市的な土地利用となっています。市街化区域では、国母工業団地等の工業団地、山梨大学医学部、リバーサイドタウン、山梨県流通センター・山梨県トラックターミナルが形成されるほか、山梨大学医学部周辺等の土地区画整理事業などが進められ、都市化が進んでいます。

豊富地域は、丘陵地の自然環境を活かした里山・農業集落を形成しています。

### ■土地利用現況図



〔資料：中央市都市計画基礎調査（平成 29 年）〕

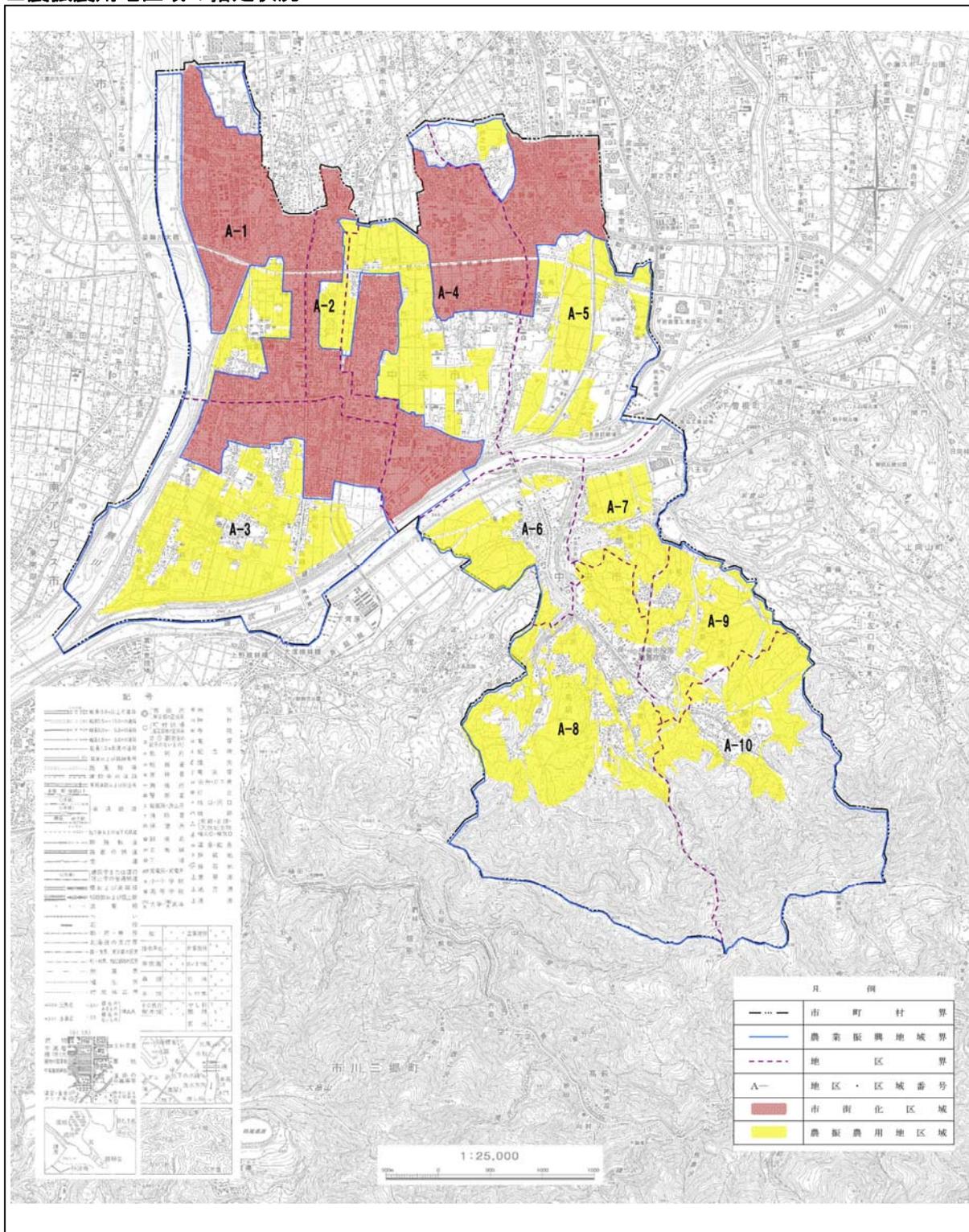
## ② 法適用の状況

本市の土地利用に関わる法適用としては、以下のような区域が指定されています。

### <主な法適用の状況>

- ・都市計画法に基づく地域地区（市街化区域、市街化調整区域、用途地域など）
- ・農振法に基づく農業振興地域（2,495ha）、農用地区域（820ha）
- ・森林法に基づく保安林（168.6ha）、地域計画対象民有林（365.8ha）
- ・急傾斜地崩壊危険区域、砂防指定地、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域など

### ■農振農用地区域の指定状況



〔資料：中央農業振興地域整備計画書（平成27年9月）〕

## 6) 都市計画の指定状況

本市は、甲府都市計画区域と笛吹川都市計画区域の2つの都市計画区域に属しており、田富地域、玉穂地域に市街化区域と用途地域が指定されています。

その他の都市計画としては、土地区画整理事業、地区計画、都市計画道路、都市計画公園、処理施設、公共下水道区域等が定められています。

### ① 都市計画区域と市街化区域

本市の都市計画区域は、2つの都市計画区域にまたがっており、田富地域と玉穂地域が甲府都市計画区域に、豊富地域が笛吹川都市計画区域に属しています。

甲府都市計画区域の田富地域と玉穂地域においては、市街化区域と市街化調整区域の区域区分（線引き）がなされ、市街化区域には用途地域が指定されていますが、笛吹川都市計画区域の豊富地域は、非線引き都市計画区域となっています。

#### ■都市計画区域と市街化区域の指定状況

区 分		面積(ha)	比率(%)	摘 要
行政区域		3,169	100.0	
都 計 画 区 域	甲府都市計画区域	1,831	57.8	田富地域、玉穂地域
	笛吹川都市計画区域	893	28.2	豊富地域
	計	2,724	86.0	
市街化区域		685	21.6	田富地域、玉穂地域

〔資料：中央市都市計画基礎調査（平成29年）〕

### ② 用途地域等

用途地域は、市街化区域を対象に、次表及び次図に示す内容が指定されています。

#### ■用途地域の指定状況

区 分	面積(ha)	比率(%)	容積率／建ぺい率(%)
第二種低層住居専用地域	30.0	4.4	80／50
第一種中高層住居専用地域	266.0	38.8	150／50・200／60
第二種中高層住居専用地域	6.2	0.9	200／60
第一種住居地域	125.0	18.2	200／60
第二種住居地域	44.1	6.4	200／60
準住居地域	14.0	2.0	200／60
近隣商業地域	4.0	0.6	200／80
準工業地域	104.9	15.3	200／60
工業地域	9.9	1.4	200／60
工業専用地域	82.0	12.0	200／60
合 計	686.1	100.0	

〔資料：甲府都市計画用途地域の変更（中央市決定）（平成28年7月）〕



## 7) 道路・交通

幹線道路では、新山梨環状道路(南部区間)や国道 140 号、主要地方道4路線及び都市計画道路等が都市の骨格を形成しています。

市内を南北にJR身延線が通っており、東花輪駅、小井川駅の2つの駅があります。このほか、路線バスやコミュニティバスなどが運行されています。

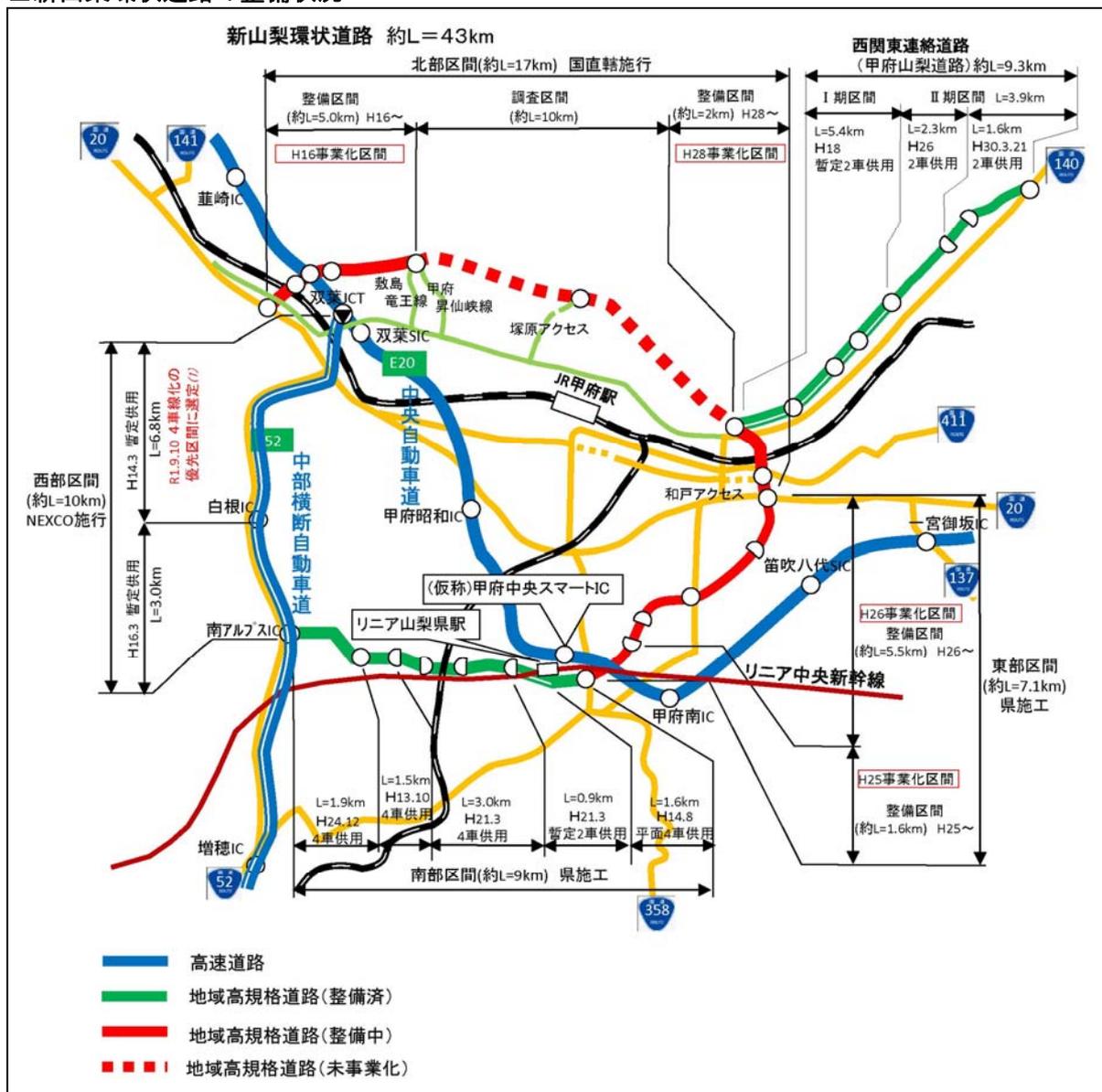
### ① 幹線道路網

#### (ア) 高規格道路

高規格道路としては、新山梨環状道路(南部区間)が本市を東西に横断し、中央自動車道甲府南 IC 方面と中部横断自動車道南アルプス IC を結んでおり、市内には4か所のランプが整備されています。

中央自動車道甲府南 IC や甲府昭和 IC に近接し将来的に新山梨環状道路(東部区間、北部区間)や中部横断自動車道、(仮称)甲府中央スマート IC が整備されれば、広域交通の利便性が更に高まることが期待されています。

#### ■新山梨環状道路の整備状況



[出典：山梨県県土整備部資料]

## (イ) 主要な幹線道路

本市の骨格を形成している主要な幹線道路としては、南北方向では、甲府市・昭和町・市川三郷町方面を連絡する（主）甲府市川三郷線、（主）甲府中央右左口線及び（主）甲斐中央線があり、東西方向では笛吹市・甲府市・市川三郷町を連絡する国道140号と南アルプス市方面と連絡する（主）韮崎南アルプス中央線があります。

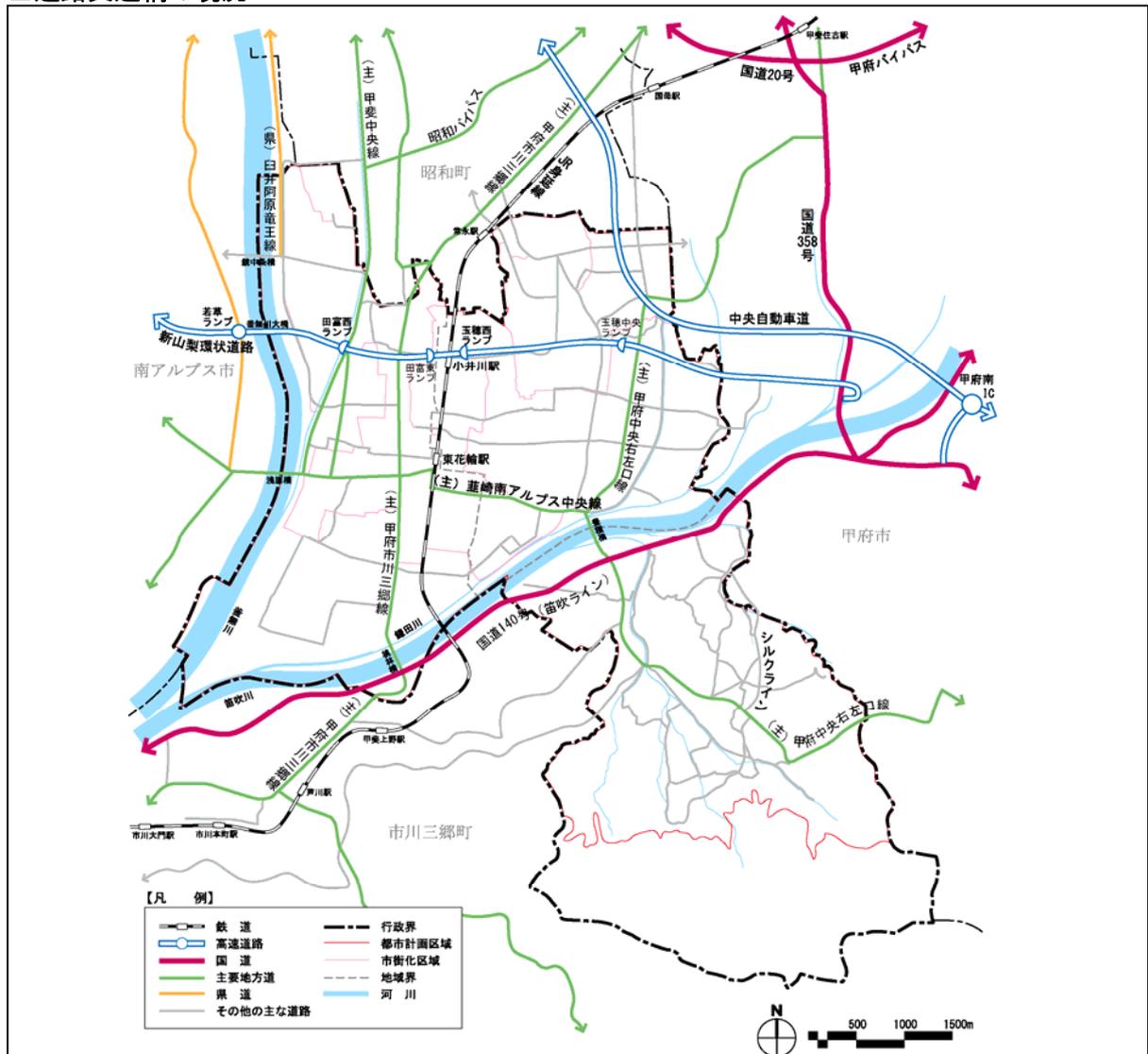
そのほか、田富地域と玉穂地域を結ぶ東西方向の主要市道や新山梨環状道路の側道も地域間を結ぶ主要な幹線道路となっています。

## ■幹線道路の交通量

路線名	平日12時間交通量(台)	混雑度	観測地点
一般国道140号	14,034	0.4	浅利橋西詰
	12,583	1.3	馬籠392
(主) 甲府市川三郷線	10,884	1.5	布施1877
(主) 韮崎南アルプス中央線	12,482	1.9	万年橋北詰
(主) 甲府中央右左口線	7,083	0.8	成島1236

[資料：中央市都市計画基礎調査（平成29年）]

## ■道路交通網の現況



## ② 鉄道・バス

### (ア) 鉄道

甲府駅と静岡県富士駅を結ぶ JR 身延線が田富地域、玉穂地域の中央を南北に通っており、東花輪駅、小井川駅の2つの駅があります。

甲府・市川三郷方面への通勤・通学駅として市民に利用されていますが、単線であり運行本数は少なくなっています。

年間の乗降客数は、平成 28 年現在、東花輪駅が 254,671 人、小井川駅が 78,317 人で、これまでは利用者は減少傾向にありましたが、平成 27 年以降は増加に転じています。



・東花輪駅

#### ■鉄道駅の年間乗降客数

年次	東花輪駅 (人)	小井川駅 (人)
平成 22 年	268,303	63,289
平成 23 年	248,827	61,778
平成 24 年	252,413	62,694
平成 25 年	251,937	67,565
平成 26 年	248,934	68,785
平成 27 年	254,137	74,731
平成 28 年	254,671	78,317

〔資料：山梨県統計年鑑（平成 30 年度版）〕

### (イ) バス

市内のバス路線は、山梨大学医学部附属病院から甲府市方面に向けて 5 系統、豊富地域から甲府市方面が 1 系統、南アルプス市から本市を經由して甲府市に向かう 1 系統の計 7 系統が運行しています。

また、市内のショッピングセンターや JR 身延線東花輪駅・小井川駅、市役所各庁舎、病院、温泉施設など各地を結ぶコミュニティバスが 1 日 3.5 往復運行されています。

#### ■コミュニティバスの年間利用者数

年次	年間乗降客数 (人)
平成 22 年	6,049
平成 23 年	7,496
平成 24 年	7,290
平成 25 年	8,554
平成 26 年	8,660
平成 27 年	9,143
平成 28 年	8,864
平成 29 年	8,651
平成 30 年	8,762

〔資料：中央市資料〕



・コミュニティバス（愛称：とまチュウバス）

## 8) 基盤施設の整備状況

土地区画整理事業等によって、都市基盤施設としては、都市計画道路、公園・緑地、供給処理施設（上水道、下水道）などの整備が進められています。

### ① 土地区画整理事業

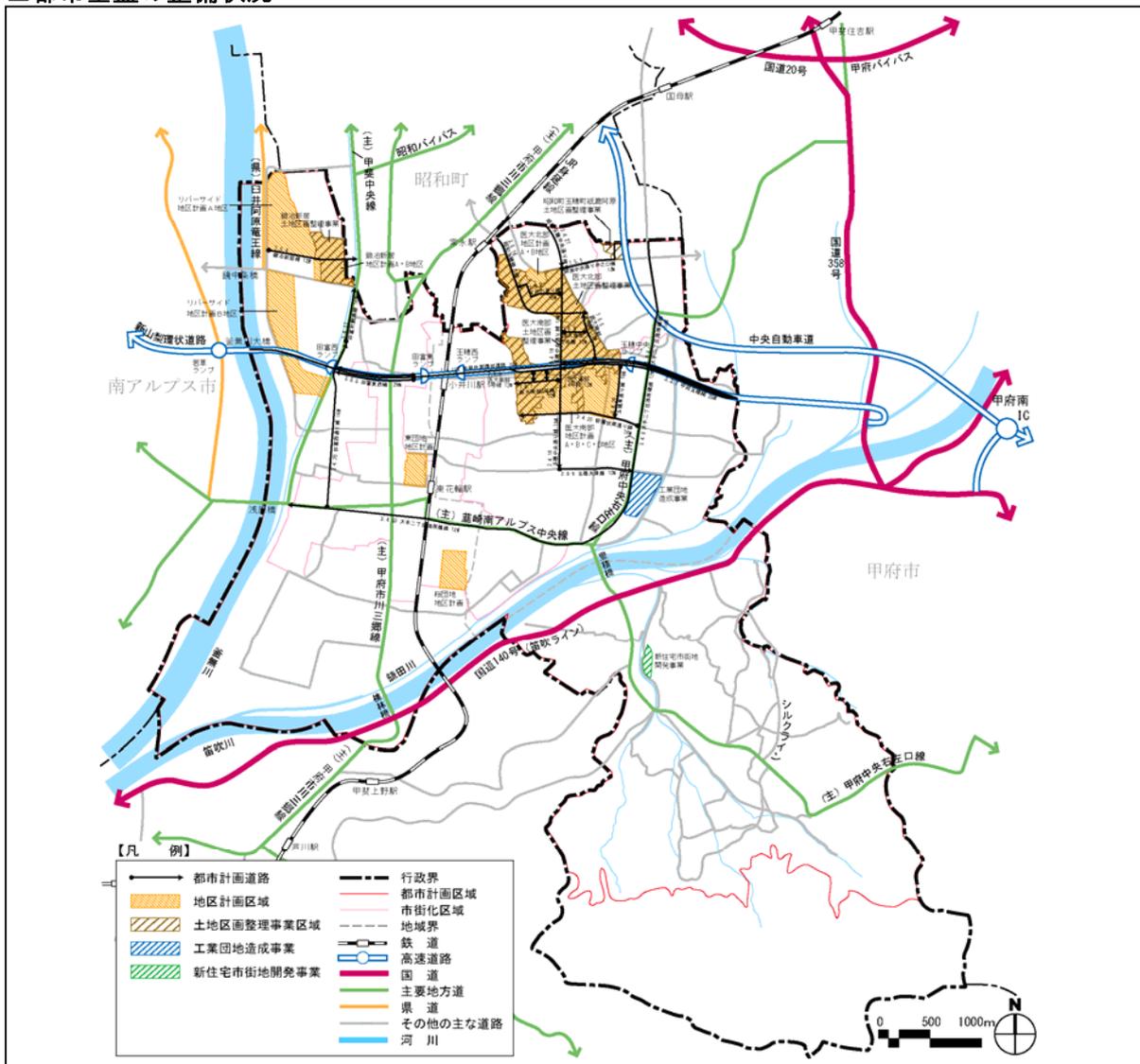
本市では、次表に示す5地区において、土地区画整理事業が実施され、全て事業は完了しています。

#### ■土地区画整理事業の整備状況

地区名	施行面積(ha) 〔中央市分〕	計画決定日 (事業認可日)	事業期間	整備状況
医大北部	28.2 [28.2]	昭和62年12月	昭和 62 年～平成 6 年	整備済
医大南部	49.4 [49.4]	平成13年4月	平成 13 年～平成 23 年	整備済
鍛冶新居	13.4 [12.8]	平成 2 年 3 月	平成 2 年～平成 18 年	整備済
鍛冶新居第二	3.5 [ 1.1]	(平成 4 年 8 月)	平成 4 年～平成 12 年	整備済
紙漉阿原	20.4 [ 2.4]	昭和62年12月	昭和 62 年～平成 4 年	整備済
計	114.9 [93.9]			

〔資料：中央市都市計画基礎調査（平成 29 年）〕

#### ■都市基盤の整備状況



## ② 都市計画道路

本市の都市計画道路は、合計 20 路線が計画決定されており、平成 27 年現在、全体の整備率は約 79%となっています。

長期未着手路線も 2 路線存在することから、今後の都市づくりを見据えた都市計画道路の整備推進が必要です。

### ■都市計画道路の指定状況



### ■都市計画道路の整備状況

番号	路線名	計画延長(m)	整備済延長(m)	整備率(%)
1.4.103	甲府外郭環状道路	4,750	4,750	100.0
3.3.7	甲府・玉穂線	1,830	1,830	100.0
3.3.8	田富東西線	740	740	100.0
3.4.33	大手二丁目浅原橋線	6,130	3,190	52.0
3.4.11	田富町敷島線	680	680	100.0
3.4.16	玉穂中央通り線	1,990	1,144	57.5
3.4.20	田富西通り線	1,620	1,620	100.0
3.4.25	新環状南通り線	1,180	610	51.7
3.4.26	玉穂東通り線	520	0	0
3.4.27	昭和玉穂中央通り線	416	0	0
3.5.8	昭和・玉穂線	1,280	1,280	100.0
3.5.9	玉穂・大津線	730	730	100.0
7.5.1	阿原中央通り井之口線	670	670	100.0
7.5.2	すみれ通り線	510	510	100.0
7.5.4	鍛冶新居線	772	772	100.0
7.5.5	医大南部 1 号線	470	470	100.0
7.5.6	医大南部 2 号線	230	230	100.0
7.5.7	医大南部 3 号線	410	410	100.0
7.5.8	医大南部 4 号線	100	100	100.0
7.5.9	医大南部 5 号線	100	100	100.0
計		25,128	19,836	78.9

[資料：中央市都市計画基礎調査（平成 29 年）]

### ③ 公園・緑地

本市の都市計画公園は、玉穂公園や田富ふるさと公園など、計 15 か所（面積約 12.12ha）が計画決定され、令和 2 年 4 月現在、14 か所（面積約 7.02ha）が開設されています。

現在、地区公園として中央市総合防災公園（面積 5.1ha）が事業中となっています。

また、都市計画公園以外の公園では、木原八王子公園など 7 か所の公園が整備されています。

#### ■都市公園の整備状況

種別	区 分	計 画 決 定		開 設		摘 要
		か所数	面積(ha)	か所数	面積(ha)	
都市計画公園	街区公園	11	3.12	11	3.12	
	近隣公園	1	2.20	1	2.20	玉穂公園
	地区公園	1	5.10	事業中		総合防災公園
	都市緑地	2	1.70	2	1.70	河川緑地
	小計	15	12.12	14	7.02	
その他	木原八王子公園	—	—	1	1.1	都市公園
	農村公園	—	—	1	2.83	条例設置公園
	農村広場	—	—	1	0.8	条例設置公園
	玉穂ふるさとふれあい広場	—	—	1	3.7	条例設置公園
	豊富シルクの里公園	—	—	1	2.84	条例設置公園
	眺望の丘公園	—	—	1	0.29	
	浅利川農村公園	—	—	1	0.14	

[資料：中央市資料]

### ④ 供給処理施設

#### (ア) 下水道

本市の下水道については、田富地域、玉穂地域が釜無川流域下水道関連公共下水道区域として事業が進められ、令和 2 年 3 月末現在、全体計画区域 852.6ha のうち、整備済区域は 504.2ha で、整備率は約 59%となっています。

豊富地域については、農業集落排水事業により整備されています。

#### (イ) 上水道

本市の上水道については、田富地域は中央市の上水道事業、玉穂地域は甲府市の上水道事業、豊富地域は中央市の簡易水道事業により供給されています。

#### (ウ) ごみ処理施設

本市の可燃ごみ、不燃ごみ等の処理については、田富地域、玉穂地域が「中巨摩地区広域事務組合清掃センター」で、豊富地域は、民間事業者へ処理を委託しています。

## 9) 防災の状況

本市は、県内の多くの都市とともに「東海地震の地震防災対策強化地域」に指定されていることから、地域防災計画や洪水ハザードマップ等を作成し、避難場所等の指定など、総合的な防災対策を推進しています。

### ① 防災対策の状況

本市は、山梨県の多くの地域とともに東海地震の地震防災対策強化地域に指定されていることから、本市では、「中央市地域防災計画」をはじめ、「中央市洪水ハザードマップ」「中央市液状化ハザードマップ」を作成し、総合的な防災対策を推進しています。

### ② 洪水ハザードマップの指定状況

本市は、笛吹川と釜無川をはじめとする大小の河川が流れており、河川周辺部においては、大雨などによる洪水の危険性があります。特に笛吹川沿いにおいては、洪水の危険性が高く、洪水時に3m以上の浸水深が想定されているエリアが広範囲に広がっています。

一方、近い将来発生が予測されている東海地震により、液状化が発生する可能性が高い地域としても指定されています。

また、豊富地域の急傾斜地等においては、土石流などによる災害の危険性が高い箇所があり、土砂特別災害警戒区域や土砂災害危険箇所等として指定されています。

### ③ 指定避難場所等

本市では、地域防災計画に基づき、以下のような避難場所等が指定されています。

#### ■指定避難場所等（令和元年現在）

地域	集合地*1	避難地・避難所*2		福祉避難所 (要援護者用避難所)
田富地域	33	4	田富北小学校、田富小学校、田富中学校、田富南小学校、(中巨摩地区広域事務組合勤労青年センター)	—
玉穂地域	30	5	三村小学校、玉穂中学校、玉穂総合会館、玉穂南小学校、中巨摩地区広域事務組合勤労青年センター	玉穂勤労健康管理センター、玉穂保育園
豊富地域	22	10	豊富小学校、JAふえふき豊富支所、豊富保育所、豊富保健センター、農業者研修センター、市役所豊富庁舎、シルクふれんどりい、大鳥居ふれあいプラザ、浅利川ふれあい館、関原コミュニティセンター	豊富健康福祉センター
計	85	19		

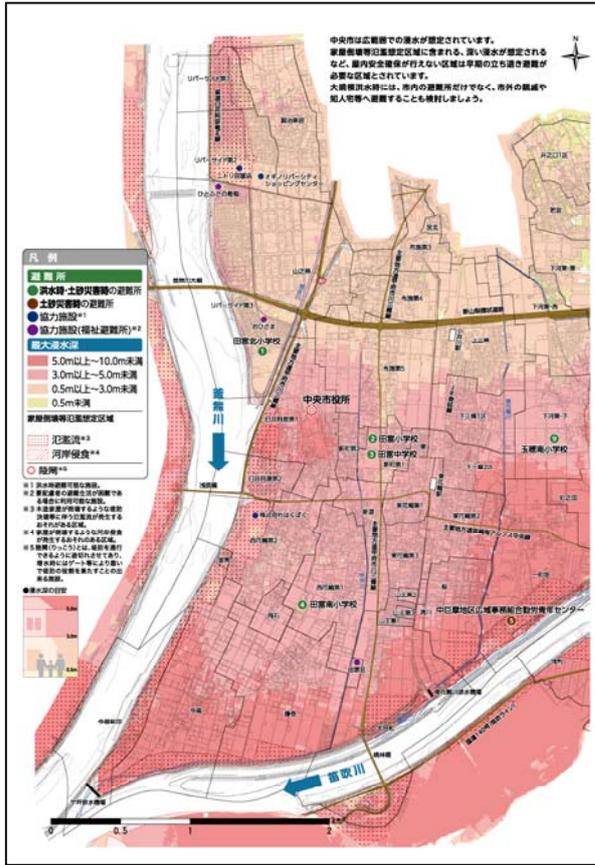
[資料：中央市資料]

注) \*1 集合地：自主防災会ごとに一時的に集合し、災害状況・安否等の確認や集団を形成できる場所で、次の避難地への中継地点として、集合した人々の安全が確保できる「空き地」・「小公園」・「公民館」等の広場をいいます。

避難地(二次避難地)は、集合した人々の安全が確保できるスペースを有し、また避難に伴う不安や混乱を防ぎ、住民の避難誘導、情報伝達、応急救護等を行うことが可能な「公園」・「小中高等学校」等の緑地、グラウンド等をいいます。

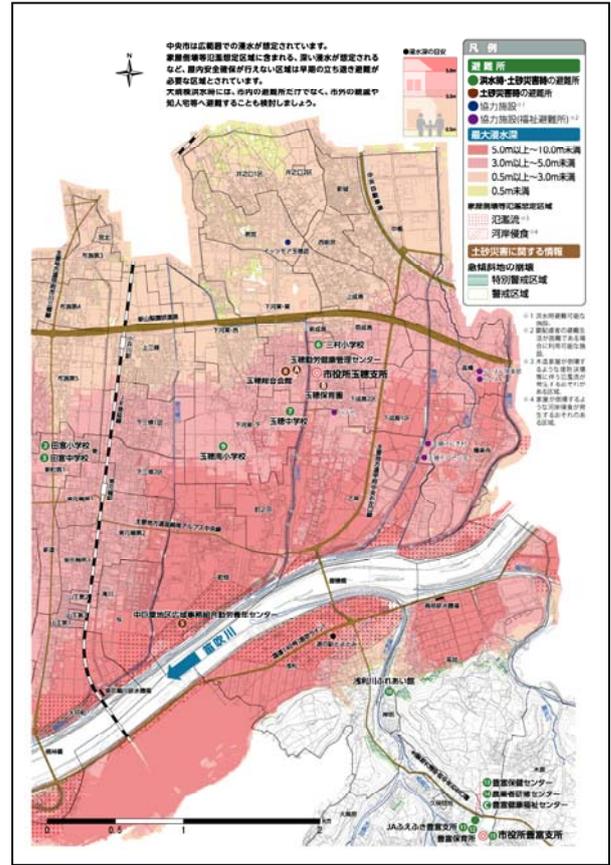
\*2 避難地・避難所：災害等により、居住場所を確保できなくなった者を収容する施設であり、かつ救護・復旧等の活動を行うための拠点ともなるものをいいます。

### ■洪水・土砂災害ハザードマップ(田富地域)



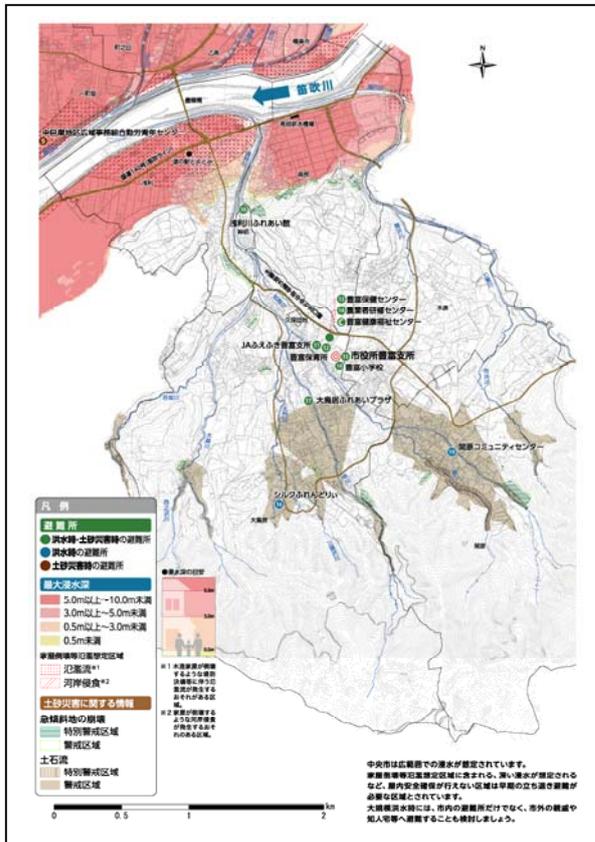
[出典：中央市防災マニュアル(令和元年8月)]

### ■洪水・土砂災害ハザードマップ(玉穂地域)



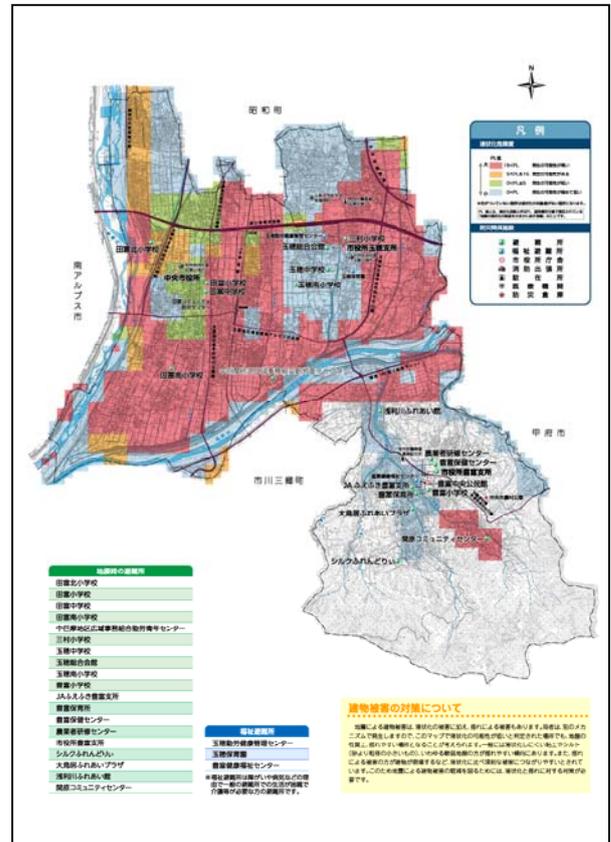
[出典：中央市防災マニュアル(令和元年8月)]

### ■洪水・土砂災害ハザードマップ(豊富地域)



[出典：中央市防災マニュアル(令和元年8月)]

### ■液状化ハザードマップ



[出典：中央市防災マニュアル(令和元年8月)]

## 10) 主な観光交流資源

市内には、観光交流施設・名所、体験施設、公園、歴史資源(文化財)、主な伝統行事・祭り・イベントなど、多様な観光資源が多く分布しています。

本市の主要な観光資源としては、下記のようなものが挙げられます。

また、近年においては、本市の最高峰である「たいら山」への登山・ハイキングルートが整備され、山頂付近からの眺望も含めた新たな観光名所として育てていく取り組みが進められています。

### ■主要な観光交流資源

区 分	名 称	所在地区	
観光交流施設・名所	道の駅とよとみ	浅利	
	四季新鮮収穫広場「た・から」農産物直売所	臼井阿原	
	山の神千本桜	大鳥居	
	妙泉寺しだれ桜	布施	
	乙黒桜	乙黒	
温泉・宿泊・体験施設	与一弓道場	大鳥居	
	シルクふれんどりい	大鳥居	
	中央市立田富福祉公園コミュニティセンター	臼井阿原	
	中央市立豊富健康福祉センター	大鳥居	
	中巨摩地区広域事務組合老人福祉センター	一町畑	
資料館	中央市豊富郷土資料館	大鳥居	
公園	シルクの里公園	大鳥居	
	水辺の楽校	臼井阿原	
	中央市玉穂ふるさとふれあい広場	乙黒	
歴史資源 (文化財)	国指定重要文化財	木造薬師如来坐像(勸盛院)	下三条
		木造聖観音菩薩立像(永源寺)	下河東
	国登録文化財	旧小井川郵便局	布施
	県指定文化財	八幡穂見神社本殿	布施
		甲斐国志草稿本及び編集諸資料	西花輪
		浅利与一層塔附五輪塔六基	大鳥居
		木造薬師如来坐像(大福寺)	大鳥居
		木造聖観音及び諸尊像(大福寺)	大鳥居
	上窪遺跡墓跡出土品一括	下河東	
市指定文化財	明暗寺尺八 粘土節など30点以上		
主な伝統行事・祭り・イベント	ふるさとまつり、桃と桜のサイクリング、スイートコーンマラソン&ウォーク、山の神千本桜ハイキング、お山の神さんの春祭り、スイートコーン収穫祭、伊勢神社茅の輪くぐり、臼井阿原伊勢神社の夏越の祓、鬼子母神祭、道祖神祭、大興神社春祭、大興神社秋祭、乙黒若宮八幡例祭など		

[資料：中央市観光振興基本計画(平成27年6月)を一部修正]

## 2. まちづくりの課題

### (1) 山梨県都市計画マスタープランの位置づけ

山梨県では、リニア中央新幹線の開業や、立地適正化計画制度の導入推進など、今後の都市づくりに大きな変化が生じることを踏まえ、令和2年度に「山梨県都市計画マスタープラン」が改定され、現在「都市計画区域マスタープラン」（平成22年度）の改定作業が進められています。

計画では、中央市が属する中西部・南部広域圏域について、以下のような広域圏域の基本理念や都市づくりの方向性、主要な都市拠点の配置方針等を位置づけています。

#### <基本理念>

**恵まれた地域資源やリニア開業を活かした交流の拡大と、快適で潤いのある暮らしが育まれる広域圏域**

#### <都市づくりの方向性>

##### ①都市機能の集約と連携による活力ある拠点の整備

（甲府盆地全体を一体の都市として、広域・地域・地区拠点等への機能分担を図った都市機能の誘導と公共交通ネットワークの形成）

##### ②農業や自然と調和した魅力的な多自然居住地域の創造

（農業環境と自然環境と調和、ゆとりある安全・安心な居住環境の形成）

##### ③高規格道路や主要幹線道路の整備推進

（中部横断自動車道や新山梨環状道路、都市計画道路などの主要幹線道路の整備推進）

##### ④市街地の拡散抑制とコンパクトな市街地の形成

（市街化調整区域や非線引き白地地域の無秩序な市街地の拡散の抑制、人口減少時代に対応したコンパクトで快適な市街地の形成）

##### ⑤新たな高速交通体系の構築を活かした産業立地の推進

（中部横断自動車道や新山梨環状道路等のIC周辺への産業立地の推進）

##### ⑥広域交流拠点と観光・交流ネットワークの整備

（リニア駅周辺整備の推進、リニア駅からのアクセス圏域の拡大、リニア駅と甲府駅を結ぶバス交通ネットワークの整備の推進）

##### ⑦地震災害や風水害などに配慮した安全・安心な都市空間の実現

（防災拠点や道路・交通・情報ネットワークの整備、安全・安心な都市空間の実現）

#### <主な都市拠点の配置方針>

##### 【広域拠点】

■広域拠点：甲府駅周辺（甲府市）

■広域交流拠点：リニア山梨県駅周辺（甲府市、中央市）

##### 【中央市の主な都市拠点】

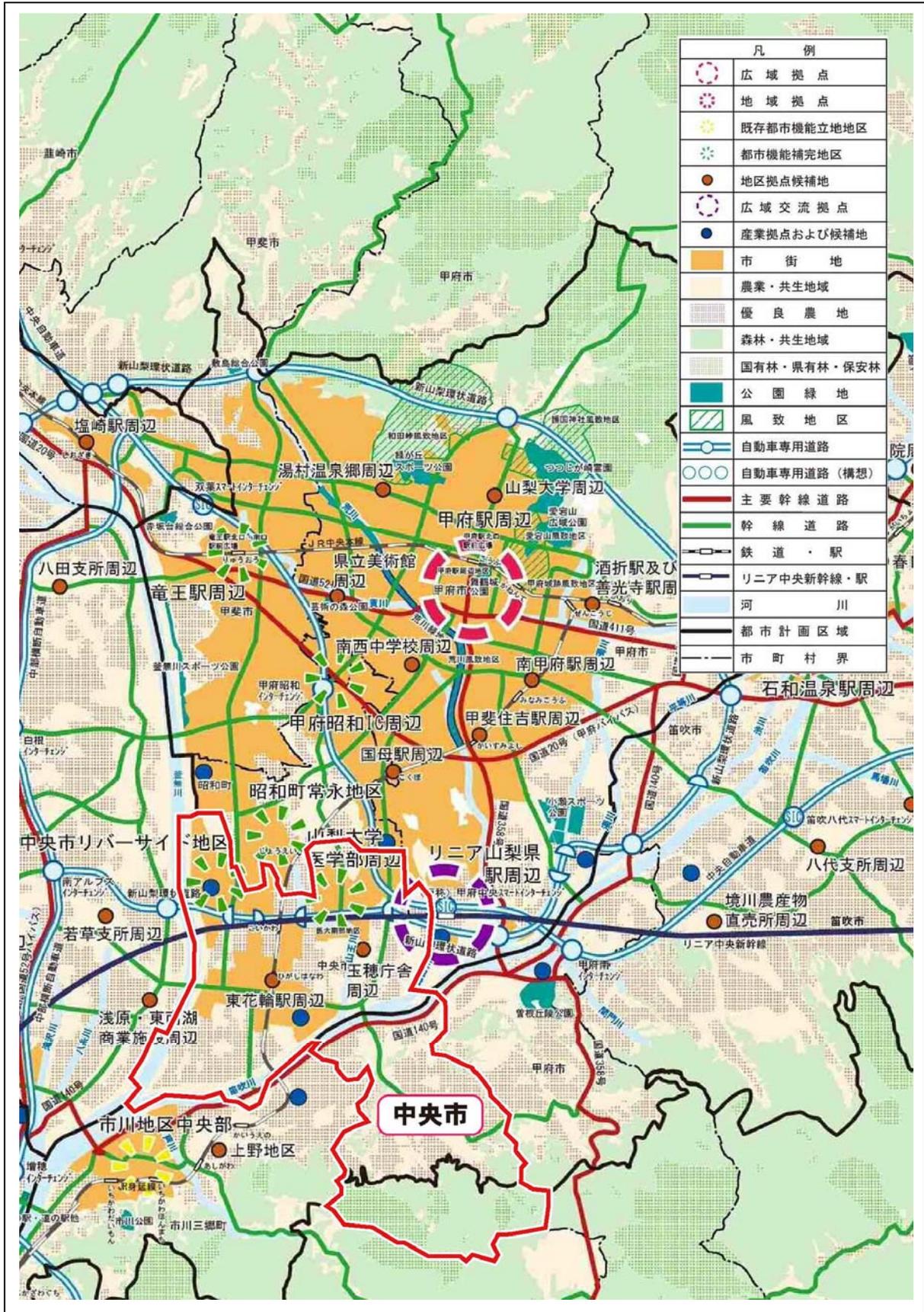
■地域拠点：なし

■都市機能補完地区：中央市リバーサイド地区、山梨大学医学部周辺

■地区拠点（候補地）：玉穂支所周辺、東花輪駅周辺

■産業拠点：一町畑工業団地、山之神流通団地

■山梨県都市計画マスタープランにおける将来都市構造図（中央市周辺）



〔出典：山梨県都市計画マスタープラン（令和2年10月）〕

## (2) 市民のまちづくりへの意向

「第2次中央市長期総合計画」の策定にあたって実施した市民アンケートでは、中央市のまちづくり分野に関して次のような意向を示しています。

### <調査概要>

- 調査期間：平成29年1月19日(木)～2月6日(月)
- 調査対象：18歳以上の中央市民から1,975人を無作為抽出
- 有効回収数：973票、有効回収率：49.3%

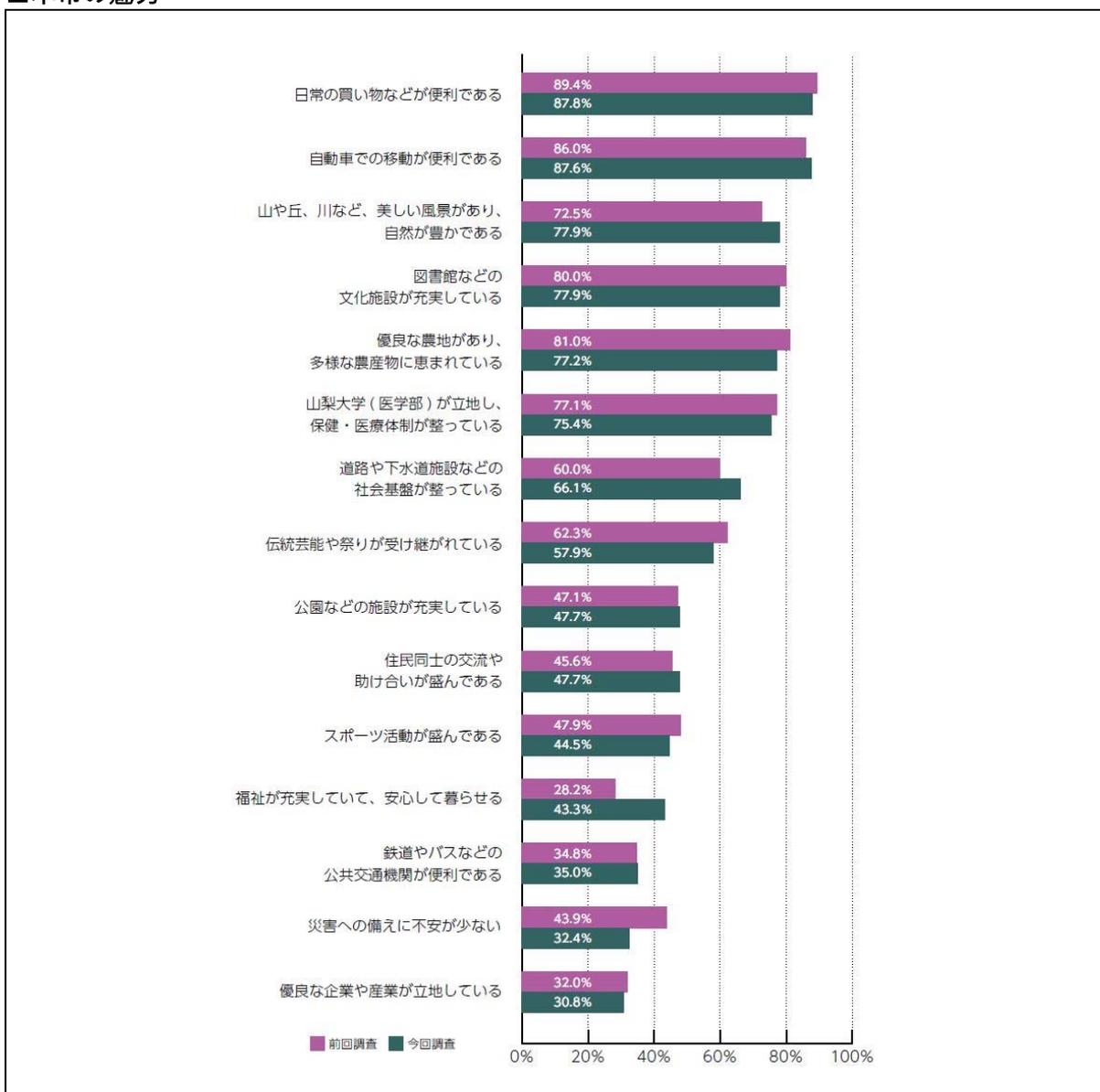
### <主な調査結果>

#### ① 本市の魅力

本市の魅力については、「日常の買い物などが便利である」、「自動車での移動が便利である」、「山や丘、川など、美しい風景があり、自然が豊かである」が上位を占めています。

反対に「優良な企業や産業が立地している」、「災害への備えに不安が少ない」、「鉄道やバスなどの公共交通機関が便利である」、「福祉が充実していて安心して暮らせる」は低い評価となっています。

#### ■本市の魅力

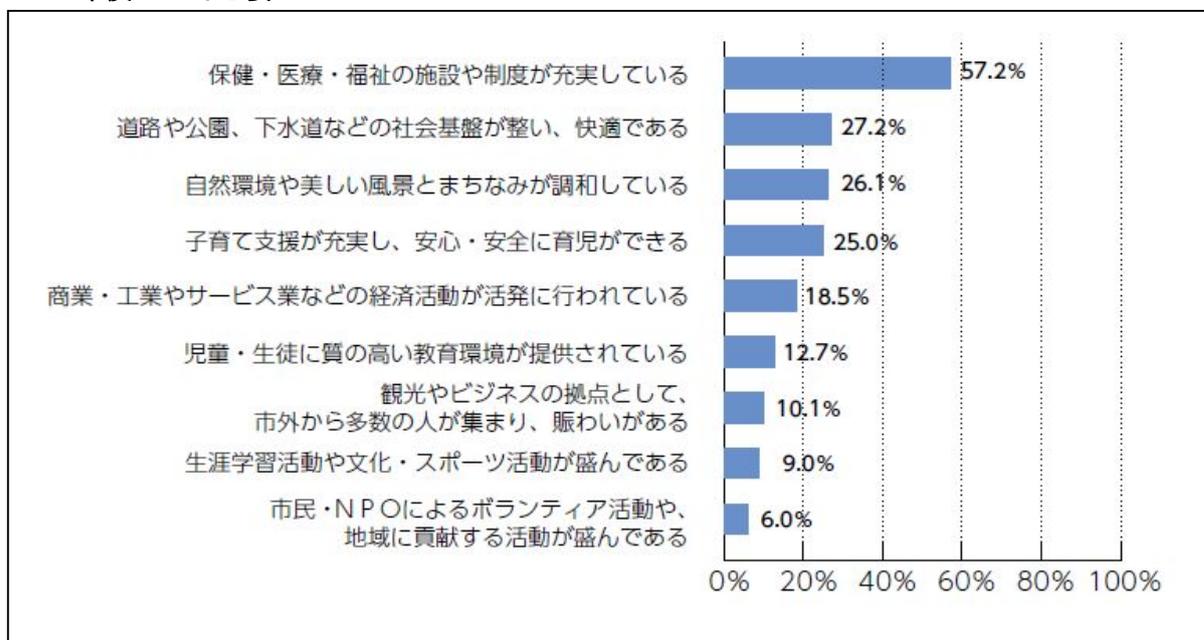


[出典：第2次中央市長期総合計画（平成30年3月）]

## ② 10年後にのぞむ姿

10年後にのぞむ姿としては、「保健・医療・福祉の施設や制度が充実している」が最も多く、続いて、「道路や公園、下水道などの社会基盤が整い、快適である」、「自然環境や美しい風景とまちなみが調和している」という結果となっています。

### ■10年後にのぞむ姿

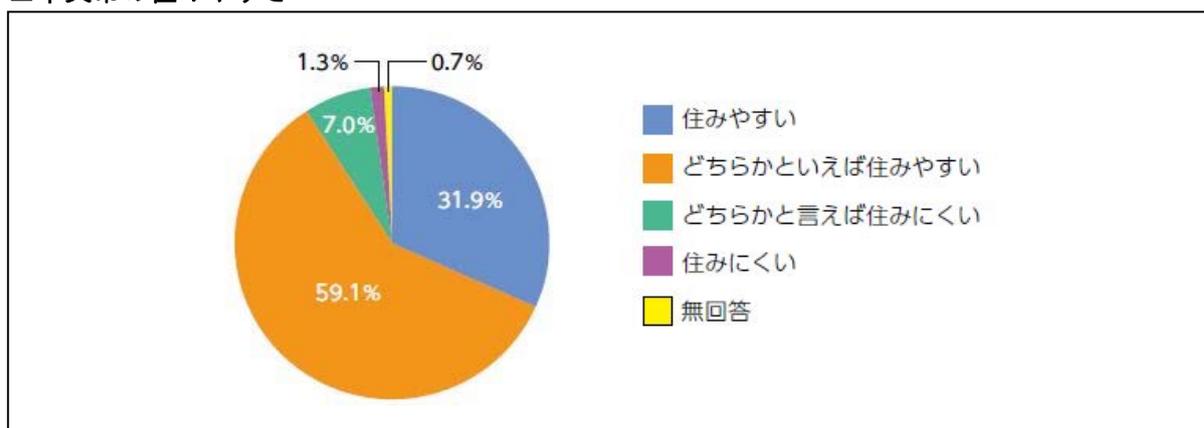


〔出典：第2次中央市長期総合計画（平成30年3月）〕

## ③ 中央市の住みやすさ

本市の住みやすさについては、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせると91.0%となっており、住みやすいという評価が大部分を占める結果となっています。

### ■中央市の住みやすさ



〔出典：第2次中央市長期総合計画（平成30年3月）〕

#### ④ 施策の重要度と満足度

施策の重要度と満足度に関する調査結果では、重要度が高く、満足度が低い項目として、「鉄道やバスなど公共交通機関の充実」、「生活道路や歩道の整備」、「行財政改革の推進」、「防災体制の充実」、「高齢者、障がい者の福祉の充実」などが挙げられます。これらの施策について重点的な取り組みが求められています。

#### ■ 施策の重要度と満足度



[出典：第2次中央市長期総合計画（平成30年3月）]

### (3) 中央市をとりまく社会・経済環境の変化

中央市をとりまく社会経済環境は、近年大きく変化しており、今後のまちづくりにあたってはこうした時代の変化に柔軟に対応していくことが必要です。

#### ① 人口減少、少子・高齢化社会の進行

我が国全体の人口減少・少子高齢化が進むなか、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると本市でも、将来的に比較的早い速度で人口減少・少子高齢化が進むことが予想されています。

これに伴って、年金、医療、介護などの社会保障制度の維持、地域においては活力が低下するなどの問題が生じると懸念されており、これらに対応するまちづくりが求められています。

#### ② 市民の価値観やライフスタイルの多様化

社会や経済の成熟化、国際化や情報化が進む中で、人々の意識は、これまでの経済的、物質的な豊かさを重視する考え方から、自身の趣味や嗜好を重視するようになり、人々のライフスタイルや価値観は、更に多様化してきました。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「新しい生活様式」に取り組んでいくことが求められています。

今後、このような傾向は、ますます進むと考えられ、暮らし方や働き方、遊び方など、多様な市民ニーズに的確に応えるまちづくりが求められています。

#### ③ リニア開業など、新たな環境の変化

リニア中央新幹線や中部横断自動車道の整備により東京圏や中京圏との結びつきが強まることが予想され、東京都の通勤圏に入ることから、東京一極集中の是正、リスク分散の観点からの首都機能の一部受け入れなどが議論されています。

こうした動向を見据え、企業の本社機能（社員も移動）の移転をはじめ、物流等の産業、観光、居住など、新たな発想に基づいた機能立地への対応が求められています。

#### ④ AI・情報化社会への対応

我が国では、情報化の進展に伴い、いつでもどこでも情報に触れ、情報を収集でき、インターネットを介したコミュニケーションを図る環境が急激に進んでいます。

一方、政府は、国内外の新たな市場を開拓するとともに、潜在的な需要を獲得するため、健康産業、観光、農林水産業、エネルギー等の成長産業化、ロボットや人工知能（AI）の活用等に積極的に取り組むこととしており、本格的なAI時代の到来、産業構造、社会システムそのものが大きく変化しつつあります。

AIや5G（第5世代移動通信システム）、テレワークなどに象徴されるように、働き方（ワークスタイル）や産業構造そのものの変化が予想されます。

#### ⑤ 安全・安心に対する意識の高まり

我が国では、甚大な被害をもたらした東日本大震災や熊本大地震をはじめ、集中豪雨による大規模な水害や土砂災害などの大規模自然災害が日本各地で発生しています。今後も大規模な災害の発生が危惧される中、防災に対する国民・市民の意識が高まりを見せています。

また、身近な地域社会における交通事故や事件、犯罪に対する不安の高まりとともに、安全、安心に対する意識も強くなっています。

#### ⑥ 環境への意識の高まり

地球温暖化をはじめ地球規模で環境問題が深刻化する中、我が国では、森林や水資源の保全、低炭素社会・循環型社会の構築など、環境への意識が高まっています。

また、東日本大震災時の原子力発電所の事故を契機に太陽光、風力などの再生可能エネルギーへの関心も高まりました。

こうした環境意識の高まりを受け、再生可能エネルギーの推進やごみの減量化、資源化など、環境への負荷が少ない社会の実現に向けた取り組みが求められています。

#### (4) まちづくりに向けた課題

本市の現状や上位計画の位置づけ、まちづくりへの市民意向、本市を取りまく社会経済環境の変化等を踏まえ、今後のまちづくりに向けた課題を以下のように整理しました。

##### 【都市構造から見た課題】

#### ① 人口減少、少子高齢化社会に対応した都市機能集約型の都市づくりを進めること

本市は、笛吹川や釜無川をはじめとした大小河川、田富地域・玉穂地域の平坦な地形と豊富地域の丘陵地形といった大地の構造を土台に、市街地や集落地、農地、里山が形成されており、地形に即した必然性のある都市構造を形成しています。

本市のこうした都市構造の特性を生かして人口減少社会、少子高齢化社会に対応した効率的な都市機能の集約化と配置を図るとともに、多様な都市の拠点が相互に連携し、魅力を高めあうようなコンパクトで一体感のある都市構造の形成が求められています。

##### 【土地利用からみた課題】

#### ② リニア中央新幹線の開業など、本市の長期的な発展方向を見据え、地域の特性に応じた計画的な土地利用を進めること

本市は、笛吹川以北の田富地域及び玉穂地域は区域区分により、一定の集約化がなされた市街地が形成され、笛吹川以南の豊富地域は豊かな自然環境に恵まれた里山・農業集落地域が形成され、緑豊かな田園都市的な土地利用となっています。

田富地域及び玉穂地域の市街化区域は、土地区画整理事業などにより基盤整備が進んでいますが、市街化調整区域は、基盤整備の遅れや耕作放棄地、空き地・空き家の増加、高齢化の進行や人口減少による集落の衰退が危惧されています。

また、豊富地域の国道140号周辺などでは、広域的な交通網の整備を見据えた開発圧力の高まりがみられます。

そのため、本市の持ち味である暮らしやすさ、良好な都市環境の維持・向上を図るとともに、地域コミュニティの維持等に向けた秩序ある土地利用の誘導が必要となっています。

また、本市東側に隣接して、リニア中央新幹線山梨県駅の設置が予定されており、開発圧力の高まりへの期待とともに、ストロー現象等の影響も懸念されています。今後は、「中央市リニア活用基本構想」との連携を図りながら、本市の長期的な発展方向を見据えた計画的な土地利用の促進が必要です。

##### 【道路・交通からみた課題】

#### ③ 周辺都市や地域間の連携・交流を支える体系的な道路交通ネットワークの強化と安全・安心な交通環境づくりを進めること

本市は、中央自動車道甲府南IC及び甲府昭和IC、整備が予定されている（仮称）甲府中央スマートICに近接しており、新山梨環状道路（南部区間）をはじめ、国道140号、（主）甲府市川三郷線、（主）甲府中央右左口線、（主）韮崎南アルプス中央線などの幹線道路網があり、周辺都市のどこへでも容易にアクセスできる交通利便性の高い都市です。

また、市内を南北に通るJR身延線には東花輪駅、小井川駅の2つの駅があるとともに、路線バスやコミュニティバスなどの公共交通も充実しています。

今後とも、周辺都市や地域間の連携強化と交流の促進、交通利便性の一層の向上を図るため、体系的な幹線道路網や公共交通ネットワークの強化を図るとともに、JR身延線駅の交通結節機能の強化、鉄道利用の促進、高齢化社会を見据えた公共交通の充実、交通安全対策の強化などが求められています。

特に、リニア中央新幹線山梨県駅の開業を見据え、新駅を新たな交通結節点として加えた幹線道路網や公共交通のあり方について検討する必要があります。

### 【都市の活力からみた課題】

#### ④ リニアの整備効果や地域資源を活用し、地域の創意工夫に基づく産業の活性化を図ること

リニア中央新幹線山梨県駅の開業に伴って、本市が東京の通勤圏になることから、新たな企業立地、観光・交流人口の増加、居住人口の増加、ビジネスチャンスの拡大などの効果が期待されています。

リニア中央新幹線の整備を契機に、本市が今後とも活気ある都市として持続的に発展していくためには、特に若者などがこの地で働き、住み、訪れてみたいと思えるような都市全体の魅力づくりと活力を高めていくことが必要です。

このため、自然、景観、歴史文化的遺産の多様な地域資源を活用し、移住・二地域居住（マルチハビテーション）の促進、空き店舗や空き家の有効活用、多様な商業施設の誘致、既存工業団地への企業誘致、特産品開発や観光農業の推進、都市と農村の交流、地域産業の育成、若者の働く場の確保など地域ぐるみの活性化の取り組みが求められています。

### 【自然、景観、歴史文化等からみた課題】

#### ⑤ 豊かな自然と田園景観、本市固有の歴史文化を守り、まちづくりに活用を図ること

本市は、曾根丘陵の山々、笛吹川や釜無川などの多くの水辺、南アルプスや八ヶ岳などの眺望など、豊かな自然環境と四季折々の美しい風景に恵まれています。

また、水害等の自然災害の歴史を乗り越え、歴史文化的な資源も数多く分布しているほか、豊富地域では、養蚕の里として発展してきた独特の歴史性をもっています。

こうした自然、景観、歴史文化的資源は、市民のふるさと意識、愛着を高める重要な要素であり、人々を惹きつける貴重な地域資産でもあります。

これらの特色ある地域資産については、その価値を再認識し、今後とも積極的に維持・保全を図るとともに、交流振興や地域の活性化など、住民が主体となって協働で取り組んでいくことが求められています。

### 【防災面からみた課題】

#### ⑥ 水害や地震など、災害に強いまちづくりを進めること

東日本大震災やその後我が国で頻繁に起こった大規模な水害や地震等を契機に、人々の防災に関する意識は高まっており、「第2次中央市長期総合計画」市民アンケートでは、「防災体制の充実」が最も重要度が高い施策として挙げられています。

本市では、県内の多くの市町村とともに「東海地震の地震防災対策強化地域」に指定されており、地域防災計画や洪水ハザードマップの作成、避難場所等の指定など、総合的な防災対策を推進しているところです。

今後は、水害や地震などの災害に備え、自助・共助の観点から防災拠点、避難地、避難所の機能強化や浸水時の対応検討など、緊急輸送路の整備、防災設備の充実、自主防災組織の強化等が課題となっています。

### 【生活環境からみた課題】

#### ⑦ 誰もが安心・快適に住み続けられる住環境づくりを進めていくこと

「第2次中央市長期総合計画」市民アンケートでは、10年後に望む姿として、「保健・医療・福祉の施設や制度が充実している」、「道路や公園、下水道などの社会基盤が整い、快適である」、「子育て支援が充実し、安心・安全に子育てができる」などの身近な生活環境の充実を望む意見が多くなっています。

こうした市民意向を踏まえ、市民の誰もが快適で、安全・安心に暮らせるよう、生活道路、公園、水道、下水道、保健・福祉・子育て・医療、公共施設等のバリアフリー化など、身近な生活環境の整備や支援体制の充実を図ることが必要です。